

台湾情報誌

# 交流

2018年8月 vol.929

公益財団法人 日本台湾交流協会  
Japan-Taiwan Exchange Association

台湾情勢(2018年7月~8月)  
好転の兆し, 未だ見えぬ兩岸関係



# 交流

2018年8月  
vol.929

## 目次

CONTENTS

台湾情勢(2018年7月～8月)

好転の兆し, 未だ見えぬ兩岸関係

—「国家」の“尊厳”と“民生”の狭間での曲折— …………… 1  
(大磯光範)

連載「日本で活躍する台湾企業」

“happylemon”ブランドの世界展開で、台湾の新しい  
食文化を伝える

～雅茗天地集団海外戦略部総監林太一氏へのインタビューより… 7  
(福岡賢昌、根橋玲子)

Computex2018 & InnoVEX2018レポート<2>

注目された製品や技術をレポート ……………15  
(吉村 章、吉野貴宣)

台湾茶の歴史を訪ねる 第八回

(8) 日本に輸出された台湾煎茶 ……………25  
(須賀 努)

台湾における選挙管理 ……………31  
(松本充豊)

日本台湾交流協会事業月間報告 ……………40

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。

※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。

万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

### ●● 交流協会について ●●

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

## 台湾情勢 (2018年7月～8月)

## 好転の兆し、未だ見えぬ兩岸関係 — 「国家」の“尊厳”と“民生”の狭間での曲折 —

日本台湾交流協会台北事務所  
専門調査員 大磯 光範

2016年5月20日に民主進歩党の蔡英文政権が誕生して2年余。兩岸関係は、「一つの中国」原則を体現する「92年コンセンサス」の承認を迫る北京当局と、右への明確な立場表明を拒む台湾現政権との間での膠着状況が続いている。台湾当局は、中国に対し「善意」を示し続けていると主張するが、北京当局はこれらを善意であるとは見做しておらず、経済、軍事、外交など各方面において台湾への圧迫を強めている。その影響は兩岸関係に止まらず、世界に飛び火しつつある。本年4月、中国民航局は各国の航空会社36社に対し、各社のウェブサイト上において「台湾」を「中国」と並記してはならず、「中国」の下位に置くことを要求し、これに対応しない場合には行政処罰を科すと発表した。対象となる航空会社は44社に拡大され、7月末時点において多数の航空会社が「中国台湾」等の表記に変更した。中国側の措置に対し台湾当局は強く反発している。

台湾圧迫の布石を打ち続ける北京当局の追い打ちは続いている。7月24日、東アジア・オリンピック委員会(EAOC)の臨時評議会が北京にて開催され、2019年8月に台中での開催が予定されていた第1回東アジア・ユース大会の中止を巡る決が採られた。結果、台湾の反対票、日本の棄権票を除く全てが賛成に投じられ、同大会の中止が決定された。

東アジア・ユース大会の中止は、中国に対する台湾の反発を大きく高める結果となり、兩岸間の対立は激化する傾向にある。現時点に至るまでに、兩岸は如何なる変遷を遂げたのであろうか。最近1～2ヶ月の動向を振り返りたい。

### 1. 兩岸間の「空中対話」 — 連戦訪中と陳明通訪米 —

兩岸当局間の対話は、2016年5月以来途絶えたままであるが、この2年以来、双方は様々な場と機会を用いて対岸へのメッセージを発してきた。蔡英文総統の談話、習近平総書記の政治報告における台湾関連部分の言及、また、大陸委員会や国務院台湾事務弁公室のプレスリリース等がそれにあたる。本年7月には、連戦訪中と陳明通訪米を機に、兩岸双方が新たなメッセージを投げかけた。このように、当局間による直接の対話ではなく、第三者を通じた間接的手法を、台湾では「空中対話」(中国語：隔空対話)と呼ぶ。以下、7月の連戦・元国民党主席の訪中及び陳明通・大陸委員会主任委員の訪米において、双方が投げかけた新たなメッセージと、その背景について概観する。

#### (1) 連戦・元国民党主席の訪中

北京を訪問した連戦・元国民党主席は、7月13日、習近平・総書記と会見した(「連習会」)。「連習会」は、2015年9月の「抗日戦争勝利70周年」を機に行われた前回以来であり、今回が4回目となる。台湾メディアの報道によると、双方ともに「主席」と呼び合った由である。

#### (ア) 習近平・総書記の言及

会見において習近平主席は、中国側の対台湾政策における「確固不動」の4点(中国語：四個堅定不移)を発表した。この中において、台湾社会が特に注目したのが第2点目「兩岸交流と協力の

拡大と深化」における以下の言及である。

我々は台湾同胞の特殊な心情を完全に理解しており、台湾同胞の既存の社会制度と生活スタイルを十分に尊重する。同様に、大陸同胞も長期間にわたる弛まぬ奮闘を経て、中国の特色ある社会主義の道を歩み、目を見張る成果を獲得したこともまた、台湾同胞の尊重を得るに値するものである。

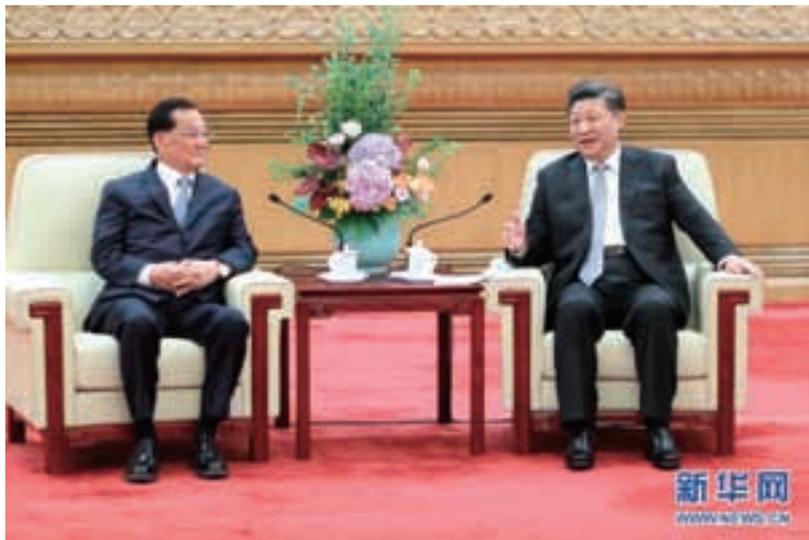
民主、自由、人権という普遍的価値の尊重と固守を大きく打ち出す台湾側に対し、習近平主席はこれ以前にも、「十分に尊重」といった理解を示す言及を行っている。更に、今般の発言において注目すべきは、中国側がこれまで獲得してきた成果に対する台湾側の理解を求めた点にある。習近平主席が、中国の発展に対し台湾側に「尊重」を求めたことは極めて稀な事例であると言える。

#### (イ) 大陸委員会の評価

「連習会」に対し、大陸委員会<sup>1</sup>はその同日にプレスリリースを発表した。同委員会は、民進党政権成立後の台湾の兩岸政策を説明した上で、以下について言及した。

中共当局は、その民族復興の発展過程において、理性、開放、尊重を学び、民主と自由、人権と法治という価値の体系に溶け込み、歴史的責任を果敢に負うべきである。

これは、中国側が度々言及する「中華民族の偉大な復興」に対する一定の理解を示すものであり、また、大陸委員会が中国側の「民族復興」に言及することも稀であることから、台湾メディアは、習近平総書記の比較的温和な言動を受けての反応であると報じている。



(出典：新華ネット)

#### (2) 陳明通・大陸委員会主任委員の訪米

「連習会」が行われた5日後、訪米した陳明通・大陸委員会主任委員は、ワシントン DC にて行われた米ヘリテージ財団主催のシンポジウムにおいて講演を行った。

#### (ア) 陳明通・主任委員の言及

陳主任委員は講演において、これ以前と同様に台湾社会の民主体制や人権尊重に触れた上で、「台湾の2300万人の命運が、非民主体制の中共に決定されることなどあり得ない」と言及するなど、中国に対する断固たる立場を表明した。他方で右と同時に言及された以下数点については、メディアをはじめとする台湾社会において、中国への善意を示すものであると理解されている。

#### ●「1949年、国民政府が台湾に移され、兩岸分治の状態が開始され、現在に至る」

「分治」とは、大陸と台湾がそれぞれの政府により統治された「分割状態」にあるということの意味する。これは、李登輝政権期の「『一つの中国』とは、分治された中国」との主張を踏襲するものである。即ち、「分治」との表現は、大陸と台湾が一つの国家に属するというを正面から否定す

1 7月2日、大陸委員会は機構改革が実施され、「行政院」が外され「大陸委員会」が正式名称となった。



(出典：大陸委員会 HP)

るものではない。

### ●「近代中国は西欧列強の圧迫を受け、民族の沈痛という総体的記憶が沈殿」

中国側は、台湾は「一つの中国」の不可分の一部であり、兩岸人民は共に「中華民族」という「一つの民族」に属するものと主張している。前項での大陸委員会のプレスリリース同様、「一つの民族」を想起させる「民族」について、民進党政権がこれに触れるのは稀であり、台湾及び中国において、こうした表現を用いることは善意を示すものとの向きも多い。

#### (イ) 中国側の反応

陳主任委員の講演内容に対し、中国国務院台湾事務弁公室は正式な形でのプレスリリースを公表していない。同主任の劉結一が本件について記者の質問を受けた際も、「その言を聴き、その行いを観る（中国語：聽其言，觀其行）」と述べるに止まり、大陸委員会主任委員の訪米等に対する批判は

控えられた。

中国側の学者には、陳主任委員の発言を肯定的に評価する者もいる。上海の著名な兩岸関係研究者である包承柯・華東師範大学教授は、陳主任委員の講演内容において「一つの中国」及び「民族大同」の概念が現れ、これを「進歩」であると評価した。

連戦・元国民党主席との会見を通じた習近平主席の台湾に対する言及、米国でのシンポジウムでの講演の機会に中国側へのメッセージを投げかけた陳明通・大陸委員会主任委員。兩岸関係者による「空中対話」は双方において肯定的に評価する向きが多く、これを機に兩岸が対話を模索する前向きな傾向が現れる可能性に期待が示された。

## 2. 東アジア・ユース大会の中止決定

一時前向きな動きが現れたかに見えた兩岸関係であったが、そうした向きは一週間と維持されずにかき消されることとなった。中国が、2019年に予定されていた台中での東アジア・ユース大会の開催中止を求めたのである。台湾においては中国の措置に対する批判が巻き起こり、「空中対話」の流れは、大陸委員会と国台弁の間を中心とする「空中舌戦」へと再び後退したのである。

2019年8月に台中で開催予定であった「第1回東アジア・ユース大会」は、東アジア競技大会の後継競技会として、第1回大会を台中で開催することが2014年に決定されていた。しかし、東アジア・オリンピック委員会（EAOC）主席である劉鵬氏（中国籍）が台中市での開催中止を提案。7月24日に北京にて開催されたEAOC臨時評議会において同提案への投票が行われ、反対票1票（台湾）、棄権票1票（日本）を除く全てが賛成（中国、香港、マカオ、モンゴル、韓国、北朝鮮）に投じられた。巨額の費用を投じて準備を進めてきた台中市政府をはじめ、台湾各方面が強い反発を

示した。台湾での国際的な祭典の中止という事件は、兩岸関係に再び暗雲をもたらした。

#### (1) 中止提案の原因

中国側が台湾当局を批判する常套句の1つに「挟洋自重」という表現がある。外部勢力の威光を笠に自身の壮大を図るという意味であり、元々は中国・三国時代の故事「曹操挟天子以令諸侯」(曹操は天子の威光を以て諸侯に令を発す)からの表現であるとされる。北京当局は、民進党が諸外国との関係を強化する動向に注視し、これを「挟洋自重」であるとして非難を続けてきた。

今般の大会中止決定は如何なる背景を原因とするものであったのか。以下、國務院台湾事務弁公室が7月25日に行った発表より概観する。

EAOEによる2019年東アジア・ユース大会の中止決定の原因は、台湾の一部の政治勢力と台湾独立分子にある。民進党当局は、所謂「東京五輪正名公民投票」の動きを放任しており、これは「五輪モデル」に対する公然たる挑戦であり、台中2019年東アジア・ユース大会に多大な政治的リスクと政治干渉をもたらした。

我々は民進党当局に対し、「92年コンセンサス」の政治的基礎に立ち戻り、自身の政治的私利のために台湾人民の利益を犠牲にせず、「挟洋自重」や幻想を抱くことを捨て去るよう忠告する。

「正名公民投票」とは、陸上競技の元五輪台湾代表であった紀政氏(元立法委員)が発起人となり推進されている運動であり、2020年東京五輪に際し、これまでの「チャイニーズ・タイペイ(中華台北)」との呼称を「台湾」に改めるべく、年末に行われる予定の公民投票に向け署名活動を行うものである。「五輪モデル」とは、1981年に中華オリンピック委員会と国際オリンピック委員会(IOC)がスイス・ローザンヌにて署名した協議内容に基づくものであり、五輪等の国際的なスポーツ祭典における代表団の名称を規定するものであ

る。所謂「チャイニーズ・タイペイ(中華台北)」との名称による大会への参加は、この時に定められた。

台湾メディアの報道によると、「正名公民投票」運動には時代力量などの一部政党も関わっており、中国側はこの動きが「五輪モデル」、ひいては「一つの中国」原則に対する挑発行為であるとして警戒を強めており、民進党当局が右を放任していることこそ、台中での東アジア・ユース大会の中止決定の原因であると示した。

#### (イ) 台湾側の反発

東アジア・ユース大会の中止決定を受け、台湾側は反発を強めている。以下は大陸委員会のプレスリリースを抜粋したものである。

本件は、北京当局による強力な政治的介入を示すものであり、台中市が主催する2019年の国際体育祭典への妨害は、オリンピック憲章の精神に違反するものであり、こうした北京当局の横暴なやり方に強烈な不満の意と譴責を表明する。

北京当局がEAOEを主導し、我が方の民間組織が自発的に行っている東京五輪正名公民投票を理由として、東アジア・ユース大会を取り消したことは、その理由や根拠を一切欠くものであり、国際上における北京当局の粗暴な圧迫は我が方の国民全体の憤慨を引き起こし、兩岸関係に重大な負の影響をもたらしている。

兩岸当局は、双方共に「スポーツの祭典に対する政治的介入」を非難し、中国側は国際的な場における台湾独立の発揚を企図しているものとして、台湾側は北京当局が国際の場において台湾への粗暴な圧迫を行っているとして、舌戦を繰り広げている。

### 3. 大陸から金門島への通水開始

7月中旬、当局間の「空中対話」により緩和が

期待された兩岸関係は、同月中旬の東アジア・ユース大会中止という事件により悪化へと逆戻りした。このような情勢において8月に入り、兩岸間において歴史的な出来事が実現を見た。大陸の福建省から金門島への通水事業の開始である。

一般的に水不足に悩まされる離島において、金門島は水資源の枯渇が常に問題視されてきた。90年代、兩岸関係の緩和により大陸から金門への通水の可能性が議題となり始め、馬英九政権下の2015年、福建省の晋江水系より金門側に水を引くプロジェクトが始動した。同プロジェクトは本年竣工し、8月5日に通水開始の式典が催される運びとなった。

#### (1) 台湾当局による式典延期要請

東アジア・ユース大会の中止は、本件にも暗雲を投げかけた。以下、7月24日に大陸委員会が発表したプレスリリースより、台湾当局の対応を概観する。

最近、大陸側による国際上での我が方への圧迫は日増しに強まり、特に7月24日のEAOC臨時会による東アジア・ユース大会の中止決定は、台湾民衆の憤慨を引き起こし、兩岸関係に重大な影響をもたらした。

兩岸関係の全般的情勢に鑑み、現時点における通水式典の挙行は時機に適うものではなく、金門県政府は政府の立場を理解し、大局に重きを置き、式典を延期することを求める。

台湾当局は、中国側の圧迫が強まる現在の雰囲気において、融和的な式典を行うことは適切ではないとして、金門県政府に式典の延期を要請した。大陸委員会はプレスリリースにおいて「同仇敵愾」(共通の仇として敵愾心をもつ)との強い表現を用いて、台湾の団結を求めた。

続いて、式典前日の8月4日に大陸委員会が再度発表したプレスリリースの概要を以下に見る。

金門県政府が挙行する式典に対し、中央政府は

金門の引水事業が全て円満かつ順調に運ぶことを祝し、将来においても金門の民生である用水に全力で協力するものであり、水資源の多元化に力を尽くすとの立場は決して変化しない。

7月24日のプレスリリースの発表から一転し、金門県政府による式典の開催を容認する立場を見せている。僅か数日の期間における態度の変化は、台湾内部において如何なる議論が為された結果であったのか、以下に概観する。

#### (2) 「民生を犠牲にしてはならない」台湾社会の反応

中央政府による通水式典の延期要請は、台湾社会、とりわけ当事者である金門県政府関係者の議論を招く結果となった。7月28日、陳福海・金門県長は、大陸委員会の意見を尊重すると示しながらも、「金門の人々の権利が優先されるべき」、「民生のインフラ建設が第一」とであると強調し、中央政府との意見との間で一部齟齬が見られた。

この時期、台湾メディアにおいても中央政府の措置を批判的に見る意見が相次いでいる。7月29日付の当地「聯合報」は「大陸が断水すれば、苦しむのは金門人」と題し、「本来地方自治の範疇である本件に対し、大陸委員会は政治的理由に基づき介入するが、仮に大陸が政治を理由に断水すれば、犠牲となるのは金門の民衆である」と論じた。この他にも、「国家の尊厳を理由に民生を犠牲にしてはならない」、「民進党は、年末の地方選挙において金門で勝利する目算が立たないため、金門に犠牲を強いている」など、民進党政権に対する強い批判も見られた<sup>2</sup>。

4日に大陸委員会が発表したプレスリリース

2 現在の陳福海・金門県長は無所属。金門島は大陸に近い土地柄、伝統的に国民党支持勢力が強く、民進党が選挙において勝利することは困難な地域であるとされる。本年11月の統一地方選挙においても、民進党は金門県長候補者を擁立していない。

は、「金門県政府主催の式典は、同地方の人士を招待してのものであり、中央政府及び中国大陸側が参加するか否かという問題はそもそも存在しない」としながらも、同県政府による式典の開催を容認した。

### (3) 中国側の台湾当局批判

8月5日、金門島及び福建省それぞれにおいて通水式典が開催された。金門側においては陳福海・同県県長らが出席し、福建側においては、劉結一・国台弁主任他、于偉国・中共福建省党委書記、唐登傑・同省省長らが列席した。式典における劉主任の式辞において、以下のような民進党政権を痛烈に批判する言及が際立った。

遺憾なことは、台湾の一部の者が陰湿なその政治目的から、こともあろうに民衆の引水、用水問題の解決に妨害を加え、挑発的な態度をとることにある。これらの者達は、広範な台湾同胞の福祉

や利益、生活を何処に置いているのか。このような、台湾同胞の民意を無視し、台湾民衆の利益に背く者達は、必ずや自身が招く結果の責任を負うことになる。

### 結 語

民進党政権発足後、兩岸当局間の対話は断絶し、既に2年余が経過している。この間、兩岸双方は「空中対話」を重ねながら、関係の現状維持に務めている。台湾側は中国に対する「善意」の表明に腐心するも、度重なる中国側の圧迫に、その都度強い対応を取らざるを得ない。しかしながら、経済・貿易面をはじめ、更には前項の金門通水事業に見るように、台湾民衆の利益は中国と更に強い連結を見せ始めている。「国家」としての尊厳と民生の狭間において、台湾は困難な道を歩み続けている。

連載「日本で活躍する台湾企業」

## “happylemon”ブランドの世界展開で、台湾の新しい食文化を伝える ～雅茗天地集団海外戦略部総監林太一氏へのインタビューより

法政大学グローバル教養学部准教授 福岡賢昌  
昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員 根橋玲子

### 1. はじめに

2017年11月から開始した連載「日本で活躍する台湾企業」では、これまでIoT、電子機器、金融、PC業界<sup>1</sup>を取り上げ、日本拠点のキーパーソンに対してインタビューを行ってきた。そして、そこで伺った内容を基盤としながら、台湾本社との関係性、日本市場における戦略、日本（地域）社会への貢献等について、筆者らは独自の視点から論じてきた。

さて、連載5回目の本稿では、これまでのような技術的な要素が強い業界ではなく、レストランチェーン業界を取り上げたい。なぜなら、この業界は食材に使用する原材料や調味料、そして食品加工用機械、包装機器、厨房機器や厨房製品等、関連企業も含めると、大変裾野が広く、あらゆる産業分野における日本企業と台湾企業の横断的な協業支援や、日台の消費者による食文化交流に至るまで、その影響力は極めて大きいからである。

本稿では台湾レストランチェーン業界の中でも、近年、グローバル展開を積極的に進めている台湾カフェレストランチェーンの雅茗天地（Yummy Town）集団を取り上げる。

雅茗天地集団は2014年に台湾で上場し、現在グループ全体でグローバルに約1000店舗の台湾茶カフェ、テイクアウト専門店、カレーレストラン、スペイン料理等飲食チェーン店を展開しているが、本稿では、その中でも特に特徴的なブランドの一つである happylemon ブランド（以下、happylemon）の立ち上げ経緯やその後のグローバ

ル展開、そして、今後の展開等について論じたい。

なお、雅茗天地集団は「台湾茶を世界の人々に好きになっていただきたい」というコンセプトで、台湾、中国、香港以外に日本、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、韓国、フィリピン等に台湾茶ビジネスを展開している。中でも、happylemon は、2012年に China Best Licensed Brand を China Cain Operation Association から受賞、2013年～2015年には、The Best Shanghai Takeout Drink Brand を Shanghai Drink Industry Association から受賞、さらに、2016年には Taipei Food Ingredients Registration Platform から、2016 Registration Excellence Award を獲得しており、日本においても「日経ビジネス」（2012年7月16日号）に記事が掲載される等、現在、台湾の飲食業界において最も注目されているブランドであると言っても過言ではない。

そこで、筆者らは「彩茶房」<sup>2</sup>の日本での立ち上げや happylemon のグローバル展開（特に中国市場の拡大）において大きく尽力した雅茗天地海外戦略部総監である林太一氏（以下、林氏）に対して、2018年6月19日に、日本拠点の一つである「彩茶房 CASCADE HARAJUKU 店」にてインタビューを行った。本稿はそれらのインタビューと各種公開資料等から纏めたものである。

### 2. 雅茗天地集団について

雅茗天地集団は、1990年代に創業者である呉伯超氏（以下、呉氏）<sup>3</sup>が、夫人と共に香港で立ち上げた企業である。呉氏は香港で珍珠奶茶（タピオ

1 Advantech、デルタ電子、中國信託商業銀行、Acer のこと。

2 仙踪林ブランドの日本版の位置付けであり、原宿の他、調布市仙川、武蔵野市吉祥寺にもある。

表1 雅茗天地集団が展開するブランド

展開ブランド	開始年	コンセプト	ターゲット	主なメニュー
仙踪林	1994年	・台湾茶館 (ティーハウス) 森にいるようなリラックスした環境	・20-40歳 ・学生 ・OL	台湾茶ドリンク、台湾デザート、軽食、ギフト
happylemon	2006年	・高品質 ・健康志向 ・新鮮さ ・創造(クリエイティブ)	・20-35歳 ・学生 ・ホワイトカラー ・健康志向の若い女性	・レモンティー ・タピオカミルクティー ・岩塩チーズティー
The Spiceland 游香食樂 Curry Cafe	2015年	・日本の食材を使用した本格日本風カレー	・10代-40代 ・ファミリー層 ・OL	牛肉煮込みカレー、火鍋風煮込みカレー、野菜カレー、オムカレー等
Alma	2016年	・おしゃれな環境 ・美味しいワインとタパス ・本格スペイン料理	・20代-40代 ・2017、2018年連続上海ミシュラン・ビブグルマン掲載	タパス料理、ハモン・セラーノ、シーフードバエリア、オリジナルデザート
TeaOpal 茶閣里	2016年	・台湾高級茶館(手摘み茶) ・茶芸師が特別な茶器でお茶を作る	・20代-40代 ・ファッションに敏感な若者	金萱茶 蜜香紅茶 焙煎烏龍茶
喝嘛	2017年	・拘りの手作り黒砂糖タピオカ(防腐剤無添加)	・10-30歳 ・学生 ・健康に気にする消費者	・手作り黒砂糖タピオカミルクティー、 ・果肉入りオレンジ茶

カミルクティー) ブームを巻き起こし、一躍成功者となった。しかし、現地パートナーに恵まれず、撤退の憂き目に遭い<sup>4</sup>、呉夫妻は1996年、改めて上海の淮海路で会社を一からスタートさせた。現在、雅茗天地集団は主に6つのブランド、仙踪林(1994年)、happylemon(2006年)、游香食樂 Curry Cafe(2015年)、Alma(2016年)、茶閣里 TeaOpal(2016年)、喝嘛(2017年)(表1)を展開している。その中で最も古いブランドである仙踪林(Real Brew Tea)ブランド(以下、仙踪林)は、2000年代の中国消費市場の成長拡大と、かつて香港や台湾を席卷したタピオカミルクティーの

中国でのムーブメントに乗り、広く一般に受け入れられ、雅茗天地集団の名もまた、それに伴って中国全土に広く知れ渡ることとなった。そして、2014年には満を持して台湾証券取引所に上場。2018年現在のグループの社員数は1300人、売上高は20億台湾元(約73億円)である。

### 3. happylemon ブランド

#### (1) 概要

仙踪林は、先述したように2007年頃、中国でのタピオカミルクティーブームに乗って中国市場(主に華南地域)で確固たる地位を築くことに成功した。しかし、同時に、収益の重要な拠点であった上海地域の競争は激化しつつあり、雅茗天地集

3 呉伯超氏は空軍航空技術學院(空軍通信電子學校)を卒業し、台湾空軍の上尉を退職後、その退職金で香港にて豆花(台湾の豆腐スイーツ)やタピオカミルクティーのカフェを開業。仙踪林やhappylemonブランドを立ち上げ、中国フランチャイズ協会の幹部も務めた。

4 2015年1月16日付Next Digital News「《企業人》一杯茶 讓他賺進十五億身家」による。

団は、仙踪林ブランドの知名度やそれに伴う収益を華南地域で維持しつつ、仙踪林と競合しない華北、華東地域において、グループ全体の収益に寄与しうる新たな柱を摸索していた。そのような背景で新たに立ち上げたのが happylemon である。

happylemon は、Fresh、Real、Finest、Innovation、Quality という 5 つの原則を掲げており、特に「新鮮」、「創造」をコンセプトに東洋のお茶に西洋の概念を融合させた「新しいお茶カルチャー」の世界展開（東洋のスターバックス）を目指している。ターゲットは健康志向の若者（特に 20～35 歳の女性）である。

happylemon は 2006 年の香港と上海での出店を皮切りに、これまで広州（2007 年）、北京（2008 年）、蘇州、無錫（2009）等、中国国内を中心として出店してきた。中国以外ではフィリピン・マニラ（2010 年）、韓国・ソウル（2013 年）、米国・ニューヨーク（2014 年）、英国・ロンドン（2015 年）、カナダ・トロント（2016 年）等に進出している。2014 年には台湾・台北にも初出店した。2018 年現在、happylemon は中国国内においては、144 都市（800 店舗）、世界では 7 ヶ国 13 都市（70 店舗）で展開している。また、2018 年秋には日本に初出店する計画がある等、今後、更にグローバルに店舗数の拡大が期待されている。

## （2）グローバルでの食品物流ノウハウと台湾の高品質農産物を使用した製品開発

先に表 1 で触れたが、happylemon の店舗では、その名の通り「レモン」を中心にした商品<sup>5</sup>が提供されている。雅茗天地集団は、飲食チェーン店をグローバルに管理運営するのみならず、1990 年代後半より香港で、台湾の高級茶葉を使用したカジュアルカフェを経営していた経験から、食品の輸出入や国際物流ノウハウを広く有している。そ

のため、台湾から高級茶葉や原材料等を始めとした高品質で低価格な食材も世界に輸出している。

例えば、中国を始めとした海外店舗で提供される茶葉は、台湾特産の高品質茶葉を使用しており、シンプルな手摘み茶のほか、ジャスミンと緑茶をブレンドしているお茶もある。レモン果汁も全て台湾製であり、契約農場からレモンを大量に買い取り、海外店舗向けに台湾から直接輸出を行っている。レモンについては、一年で一番品質が良いとされる時期（7 月～10 月）に絞った果汁を冷凍保存することで、世界の各店舗で提供されるレモン果汁の均質化を実現している。

なお、台湾ではレモンが多く栽培されているが、長期保存が難しい農産物であるため、一次産品としての輸出には限界がある。つまり、市場が限定されているため、様々な理由により販売できなかったレモンの廃棄問題等が起こっている。そのため、台湾でレモン栽培を行う農業経営者の生産・販売リスクは高い。そこで、雅茗天地集団はこの問題に着目し、自社で余剰農産物を確実に大量に買い取ることで単価を抑え、また、レモン栽培を行う農業経営者の生産・販売リスクを著しく軽減させることによって、双方に安定した収益をもたらすことを可能とするビジネスモデルを開発した。このビジネスモデルは（廃棄する可能性があった）農産物の有効利用という点において、その意義は極めて大きいと言える。

## （3）マーケティング戦略

飲食ビジネスのグローバル展開においては、常に味のローカライズ化（カスタマイゼーション）についての課題が付きまとう。進出した国・地域の店舗で提供するメニューの味がそこで暮らす人たちの口に合うかどうかは、ビジネスの成否に大きく影響を与えるからである。とは言え、その地域の天気、気候、歴史、文化等を全て考慮し、極度にローカライズ化を進めると、高コストとなり、また、標準化すべきグローバルブランドにも負の影響を及

5 レモンシリーズ以外では、クラシックシリーズ、ミルクティーシリーズ、岩塩チーズクリームシリーズ、スムージーシリーズがある。

ぼす。そのため、企業は味について慎重な議論と決断が必要となる。実際、林氏によれば、happylemon もまた、北京に進出する際、社内でメニューの味を調整する必要性について徹底的に議論を行ったと言う<sup>6</sup>。その結果、happylemon では、店舗で提供するコア商品の味のローカライズ化は基本的に行わず（味のグローバル化・標準化を追求し）、砂糖やガムシロップの投入量を選択式にし、お客様に都度伺うことによって対応することとした。また、各国・地域毎に現地でのメニュー開発を行い、地域限定ローカルメニューを導入した。

なお、先述したように happylemon のターゲットは健康志向であり、流行に敏感かつ高品質を好む若者（特に 20～35 歳の女性）である。そのため、彼らが好む都市部のショッピングモールや鉄道周辺を中心とした人通りが多い場所に店舗を構えることが多い。しかし、出店にあたっては、happylemon から動くことは稀である。通常は、フランチャイズオーナーになりたい人に、まず手をあげてもらい、その後、集客が見込める立地を happylemon が詳細分析した上で最終決定している（このような経緯に至った背景については後述する）。

親しみのある複数（5つ）のキャラクター（Lemon Boy 等<sup>7</sup>）をパンフレット、リーフレット等の宣伝に活用したプロモーション戦略についても触れておく。なぜなら、キャラクターを活用したプロモーション戦略はどの業界においても、親しみやすさやブランド認知を目的として一定数見られるが、このような5つのキャラクターを活用したプロモーション戦略はレストランチェーン業界ではあまり見られないからである<sup>8</sup>。そのため happylemon のプロモーション戦略は非常に独

自性が強いと言える。5つのキャラクターは、それぞれ happylemon の活気、健康、可愛らしさという特徴をうまく表現しており、単独でキーホルダー、ペン、ぬいぐるみ等のグッズとしても販売されている。こうした戦略は happylemon の中長期的なブランドエクイティ（例えば、ブランド認知や想起等）を形成するだけでなく、happylemon を経験した顧客の口コミによって新たな顧客層の獲得も見込まれる。

#### （4）日本展開

先述したように、2018年秋に happylemon を日本で初出店する計画がある。happylemon の経営形態は主にフランチャイズ形式であり、各国のフランチャイズオーナーの多くは華人である<sup>9</sup>。しかし、日本では他の国・地域と比べて華人経済が市場のマジョリティではない。そのため、日本への進出がこのタイミングになったと言う。

## 4. 林氏の経歴

### （1）雅茗天地集団入社まで

林氏は台湾で生まれ、台湾で育った。台北の仙踪林でのアルバイト経験もある。国立高雄海洋科技大学で船舶技術を学んだ後、1999年に来日した。その後、大阪の日本語専門学校で約2年間、日本語を集中的に学び、立命館大学に入学。飛び級制度を活用して3年間で卒業すると、そのまま立命館大学大学院に進み、修士号を取得した。大学院では主にフランチャイズ展開について研究し、飲食業の基礎を学んだ。林氏は、親族がレストラン経営者であることから、台湾でもアルバイトで中華料理の厨房に立っていた。そして、日本留学当初から、日本式の飲食サービスや調理等を学びたいという希望が強くあった。そのため、日本で留学していた時には、居酒屋や海鮮チェーン等で積極的にアルバイトの経験を積んだと言う。

6 例えば、林氏によれば華南地域では甘いものを好み、華北地域では甘いものは苦手である。

7 Lemon Boy 以外のキャラクターは、Ms. Pudding, Drinkies, Cream Baby, Saga Army である。

8 飲食業界で複数のキャラクターを展開する例としては他にマクドナルドがある。

9 特に台湾と中国を分けていない。

## (2) 雅茗天地集団入社後

### ① 雅茗天地集団上海拠点での経験と北京での happylemon ブランドの立ち上げ

林氏は大学院で修士号を取得した後、2006年、既にカフェチェーン「仙踪林」を中国全土で展開していた雅茗天地集団に入社した。林氏は、まずは上海本社で「仙踪林」のマーケティングを学びながら、2年間、上海での happylemon の立ち上げを担当した。当時、仙踪林は、台湾のカフェレストランとして、グローバル展開に成功していたが、同社経営陣は、米国のカフェチェーンである「スターバックスコーヒー」に対抗出来るようなコンセプトのカフェレストランを開店させたいと考えていた。そこで林氏は、東洋発の「新しいお茶文化の創造」を目標とし、従来の米国系カフェ利用者のうち、先述した「新鮮」、「創造」というキーワードに敏感な20~35歳の健康志向の女性をターゲット層に据えた happylemon のメニュー開発に全力を注いだ。林氏は「女性や子供にも入りやすく、30歳ぐらいまでの若年層をターゲットにする場合、ブランド価値を保ちながら、一定の利益を生む客単価で提供できるメニューは何か。」また、「台湾から直輸入する原材料にもこだわりながら、徹底的にコストを削減するにはどうしたら良いか。」について考え抜いた。その後、市場調査を徹底的に行った結果、当時の中国においては、1)農産物の品質維持や安定供給が難しいこと、2)台湾産のレモンは季節商品の為、時期が過ぎると廃棄が多い、ことが分かった。そして、台湾産のレモンを使ったメニュー開発の可能性について何度も検討を重ねた。こうしたプロセスを経て、最終的に、先述したビジネスモデル（台湾でシーズンに収穫されたレモンを大量に購入し、現地工場で圧搾、そして原液を冷凍した状態で中国に輸入する方式）を開発・採用するに至ったのである。なお、「仙踪林」の有する台湾産の高品質茶葉の大量輸入ルートは既に確保されていたことから、林氏はこの時点で「季節に拘らず、飲食チェー

ンとして、安定した品質で大量に製品を供給できる」ことを確信していた。

happylemon の店舗が上海で立ち上がると、林氏はかかりっきりで上海での出店に携わった。また、「良い立地の場所を高い賃料で借りることは、ブランドの確立には重要である」という強い信念のもと、店舗設営に苦勞しながらも優良な立地に徹底的にこだわった。その甲斐もあり、今では、ショッピングモールの開業時には（happylemon 側からではなく）、真っ先に声がかかるようになり、上海において有名な飲食チェーンとして、確固たる地位を築いている。林氏によれば、「この経験は日本の店舗運営においても十分に活かされている。」と言う。

### ② 北京佳群餐飲管理有限公司（雅茗天地集団北京拠点）業務部総監時代

林氏は上海での happylemon の立ち上げに成功すると、2008年、北京で happylemon の立ち上げ責任者として赴任し、2012年までに北京・天津エリアで約40店舗を立ち上げた（当時、本社の上海近辺では既に約100店舗が展開されており、中国全土では約300店舗と拡大していた。）。

先述したように、雅茗天地集団は、仙踪林での20年以上にわたる飲食チェーンのグローバルオペレーションノウハウを有しており、林氏が参画した当時もグローバルでの店舗運営を円滑に進めていた。そのため、企業・組織として、ある程度、店舗運営や立ち上げノウハウが蓄積されていた。しかし、一方で、同じ中国国内とは言うものの、商業の中心である上海と政治の中心である北京とはあらゆる点で異なるため、林氏は北京での立ち上げ時、多くの困難を経験したようである。例えば、北京で新しいコンセプトの飲食業を成功させるためには、北京の経済界の人脈が必要であった。それは、台湾出身で日本留学組の林氏にとって新しいチャレンジであったと言えるだろう。林氏の夫人は、立命館大学の同級生であったが、この北

京時代のビジネスには、中国出身の夫人やその家族の人脈に助けられたと林氏は言う。雅茗天地集団董事長の呉氏の夫人も、同社董事として苦楽を共にしながら、ビジネスを拡大、成功させてきており、同集団の成功は家族の絆なくして無かったと言えよう。

このように林氏は試行錯誤しながら、困難を一つひとつ乗り越えていき、北京において店舗を拡大していった。この時のことを振り返りながら林氏は、「北京でのブランド立ち上げは、多くの困難があったが、全くゼロから店舗を立ち上げたことで、実践的なマーケティングノウハウを得ることができた。また、駐在時、創業者の呉氏とともに中国フランチャイズ協会等に頻繁に顔を出したこと等によって、有益な人脈も構築することができた。そして、それらはその後のキャリア形成に大いに役に立った。」と語った。

なお、原材料や物流ルートは大手飲食チェーンの方式を踏襲する同社であるが、各店舗での調理に関しては、セントラルキッチン方式を採用していない。なぜなら、林氏は長年培った飲食チェーン店のアルバイト経験から、チェーン展開を行うカフェにとって、セントラルキッチン方式が必ずしも最良でなくまた万能でないことも、現場の人間として良く分かっていたからである。そのため、happylemonの各店舗では、顧客のオーダー後に、商品その場で作る方式を採っている。このような提供方式でも、中国全土で一律に同じ商品を提供できるのは、同社のオペレーションマニュアルや従業員研修ノウハウで、「厳選された茶葉」と「鮮度＝作りたて」に拘り、顧客に提供できる仕組みを整えたところに、happylemonの成功の鍵があるのではないかと筆者は推察する。

### ③日本との繋がりを求めて～北京和僑会<sup>10</sup>との関わり

北京駐在時代の林氏は、新規事業の立ち上げという多忙な状況の中で、日本人を中心とするビジ-

ネスネットワークング団体である「北京和僑会」の活動に携わり、流暢な日本語を活かしながら、台湾人として日系企業、日本人との交流にも尽力した。

台湾に生まれ育った林氏は、先述したように日本の専門学校、大学、大学院と学んだが、留学当初は日本語が全く出来ず、生活や学業等において、数多くの日本人に助けられたと言う。林氏は日本への留学時に、元香港和僑会会長の筒井修氏と出会い、その活動に感銘を受けたことから、「和僑会」の活動に関心を持った。中国出身の夫人も日本留学組であることから、「留学経験を活かして日本との架け橋になりたい」と考え、会の活動を通じて、現地の日系企業に対して、中国進出時及び中国進出後において、いかに中国企業や中国人と対応するか等、様々なアドバイスをこれまで行ってきた。

さらに林氏は、「留学時代に所属した華僑会のような、ビジネス面だけでなく生活面のサポートも重視した、和僑二世、三世の絆を作っているような組織にしたい。」と、北京和僑会を立ち上げ、非日本人としては初の理事（後に顧問）に就任。日中投資促進機構の上海地区における調査団の訪問先アレンジとアテンド、現地（上海）での調査報告会の報告総括も担当し、会員企業へのアドバイスも行っている。

### ④上海本社に戻り、大手日系企業との飲食ビジネスをスタート

北京でのhappylemonの立ち上げやマーケティング支援の目途がつくと、林氏はすぐに上海本社から呼び戻された。京王グループのレストラン事業を展開する株式会社レストラン京王（東京都府中市）との合弁事業を進めるためである。

10 北京和僑会は、2004年に設立された香港和僑会を中心とする和僑会のネットワークの一つである。香港和僑会は、香港で起業した筒井修氏（太陽商事）、荻野正明氏（シテイスーパー）を歴代会長として、当初は、海外にいる日本人企業家に対する、自助努力を原則とした「互助」会という位置付けであった。「和」を以て尊としとなす」が和僑会の理念である。

台湾株式市場に上場し、台湾を代表する大手レストランチェーンとして認知された2014年、雅茗天地集団、レストラン京王、日系設計デザイン会社のUDS株式会社<sup>11</sup>の3社が合併会社「上海游香餐飲管理有限公司(上海市)」を設立することとなり、林氏はその準備に追われることとなった。そして、2015年10月にカレーレストラン「The Spiceland」の1号店が大上海時代広場6階に開店。そこでは、これまで中国人に親しみのなかった火鍋風煮込みカレー、野菜カレー、オムカレー等を提供したことで、中国の消費者の大きな関心と呼び、需要が大きく喚起された。その後、2号店が大寧音楽広場4号館1階に、3号店が上海百聯世紀購物中心地下2階、そして2017年6月には、4号店が上海市内の商業施設「宝地広場」地下1階と、上海市内の有力ショッピングモールに相次いで出店していった。

#### ⑤日本への再来日と新業態台湾茶カフェ「彩茶房」の日本での展開

このように雅茗天地集団と京王グループとは、上海でのビジネス連携を通じて信頼関係を深めていった。そして、2015年、雅茗天地集団は日本において、京王電鉄株式会社と合併会社を設立し、同年、先に述べたように東京原宿に「彩茶房」という台湾茶カフェを展開するに至った。「彩茶房」は若年層をターゲットにしたカジュアル台湾カフェであり、台湾のお茶だけでなく、肉そぼろ(魯肉:ルーロー)を利用した麺やご飯類などの軽食も扱っている(写真1、2)。

タピオカミルクティー(珍珠奶茶)が定番商品ではあるが、台湾のスイーツも季節に合わせて提供しており「湯圓」や「愛玉ゼリー」、「台湾風かき氷」等が人気を博している(写真3)。

11 UDS株式会社は、まちづくりの企画・開発、不動産リノベーション事業に実績を持ち、「キッザニア東京」や「ホテルカンラ京都」等の企画・設計、運営会社として、そのビジネスモデルが目まぐるしく注目されている。

写真1：台南担仔麵とミニ魯肉飯



出所：筆者撮影

写真2：大根餅などの軽食もある



出所：筆者撮影

写真3：台湾の定番デザート



出所：筆者撮影

また、岩塩チーズの台湾茶ドリンクも提供している(写真4)。これはビールの泡のような細かいチーズが上面にフロートしているため、ストローを使わずに飲むことが推奨されている。岩塩と甘いクリームチーズがクリームのような口当たりで、新感覚のスイーツである。その後、ストローを使って、甘い台湾茶と一緒に頂くと、お茶の甘

写真4：岩塩チーズティー



出所：筆者撮影

味と香り、そして甘いクリームチーズが口の中で溶け合う。日本ではこれまでなかった非常にユニークなドリンクである。

## 5. おわりに

林氏はインタビューの終わりに、「日本留学経験や上海での日系企業のビジネス支援等の経験から外国人が日系企業（日本人ビジネスパーソン）から信頼を得るためには結局のところ「日本語」が必要である」と述べた。これは他国と比較して「英語」や「中国語」でビジネスをし、他国の人と信頼関係を構築することができる日本人が依然として限られていることを示唆しており、日本人ビジネスパーソンの課題であると言える。

林氏は、2017年に再来日した後も、引き続き北京和僑会顧問を務める傍ら、東京和僑会とも連携を取りつつ、精力的に中国、台湾と日本とのビジネスの橋渡しを行っている。雅茗天地集団はグローバルで食品流通を行うインフラを有しているため、林氏は自社で使用する食材だけでなく、中国飲食チェーンや高級レストランからの依頼に応じ、高級食材等の日本からの食材調達や中国向け輸出もアドバイスをを行っている。実際、2018年6月12日～15日のFOOMA JAPANの展示会の中国企業招聘も担当し、中国から10数社の飲食チェーンのオーナーの来日アテンド、企業訪問交流や視察のスケジュール調整を行った。

また、林氏は台湾政府機関との繋がりも多く、台湾貿易センター（以下、TAITRA）や台湾進出

写真5：彩茶房と林太一総監



出所：筆者撮影

口商業同業公会などのネットワークを通じ、日本企業とのマッチング事業等の協力も行っている。さらに、大阪商工会議所の協力で、深圳の一部上場ネット販売企業総経理の来日視察をアレンジ

し、会員企業の紹介と商談の手配等の支援も行ったこともあった。林氏は、TAITRAと日本貿易振興機構（JETRO）が推進するASEANでの日台協力についても関心を持っており、台湾連鎖加盟促進協会（FC協会）のイベントにも参加し、台湾のフランチャイズチェーン店のニーズ把握も積極的に進めてきた。

林氏は今後、地方自治体の台湾でのマッチング支援や、地域の中小企業のグローバル市場への食品輸出支援を行うことを計画しており、将来の日本と台湾との更なる深い交流への期待に胸を膨らませているようである。

## <参考文献>

- [1] 一般社団法人東京和僑会ウェブサイト, <http://tyo-wakyo.com> (2018.7.23 アクセス)
- [2] 彩茶房ウェブサイト, <http://saisabo.com> (2018.7.24 アクセス)
- [3] 日経ビジネス (2012年7月16日号)
- [4] ettoday (2018年7月10日付), <https://www.ettoday.net/news/20180710/1209975.htm> (2018.7.20 アクセス)
- [5] happylemon ウェブサイト, <http://www.happy-lemon.com> (2018.7.31 アクセス)
- [6] happylemon パンフレット
- [7] Next Digital News 「《企業人》一杯茶 讓他賺進十五億身家」 (2015年1月16日付)
- [8] UDS ウェブサイト, <https://www.uds-net.co.jp> (2018.7.28 アクセス)

## Computex2018 & InnoVEX2018 レポート < 2 > 注目された製品や技術をレポート

台北市コンピューター協会 東京事務所 駐日代表 吉村 章  
Pangoo Company Limited/盤古科技 代表 Computex ウォッチャー 吉野貴宣

先号に続いて Computex2018 & InnoVEX2018 をレポート。2回目となる今回は Computex2018 で注目を集めた製品や技術を取りあげる。単なる視察ではなく、Computex を具体的なビジネスに繋ぐためにどんな点に注目すべきか、製品や技術の見方も考えてみたい。日台アライアンスに取り組む企業の参考となれば幸いである。

### ■ 168 の国と地域から 42,284 人のバイヤーが集まる展示会

Computex2018 & InnoVEX2018 は 2018 年 6 月 5 日 (火) から 6 月 9 日 (土) まで、台北/世界貿易センター展示場及び南港ホールにて、会期 5 日間で開催された。(ただし、InnoVEX2018 は 6 月 6 日 (水) から 6 月 8 日 (金) までの会期 3 日間) 出展企業数は 1,602 社、5,015 小間。海外からのバイヤー登録者は 168 の国と地域から合計 42,284 人。Computex とは海外からバイヤーを集め、台湾製品を買い付けてもらうための展示会である。情報収集やビジネスのトレンドを見る展示会ではなく、商談が目的。台湾製品を海外に売りさばくためのトレードショー、それが Computex である。(詳細は 2018 年 7 月 vol.928 にて) 今回のレポートでは Computex で注目を集めた製品や技術のいくつかを紹介したい。

### ■ アンバンドル (Unbundle)、リバンドル (Rebundle)、ガジェット (Gadget)

今回のレポートでは 3 つに分類した分野からそれぞれ製品を紹介したい。また、最後に筆者 (Pangoo / 吉野氏) が支援した日台アライアンスの具体的な事例も紹介したい。

アンバンドル (Unbundle) とは細分化あるいは



写真1 Computex & InnoVEX2018 は 6 月 5 日 (火) から会期 5 日間、台北/世界貿易センターで開催

ばら売りという概念で、異業種も含めたコラボレーションで個々の技術のさらなる応用の可能性を探ることが出展の目的である。

製品レポート (1) ~ (3) はアンバンドルの製品や技術を紹介する。ここでは特に台湾企業の技術力に注目。要素技術やそれを実装したモジュールなど、専門性や独自の技術を売りこむために Computex に出展している。協同開発を目的としたパートナー探しのために出展している企業も多い。

製品レポート (4) ~ (6) はリバンドルグループ。今までにある技術などを見直し、再度組み合わせた製品である。リバンドル (Rebundle) とは組み合わせ、再パッケージ化すること。ここでは技術を見直す切り口や組み合わせの妙で感心させられた製品をご紹介します。

製品レポート(7)～(9)はガジェット(Gadget)的な製品の紹介である。PCやスマートフォンの周辺機器や遊び心が楽しめる製品が中心。筆者が見つけたComputexらしいおもしろグッズを紹介する。

最後の製品レポート(10)は筆者が支援した日台アライアンスの成功事例を紹介したい。



写真2 日本の垂直統合モデルではなく、台湾は水平分業的なモノづくりが特徴。Computexには横の連携を目的に出展する企業も多い。写真は工業技術研究院のAIで文字を認識するロボット

## ■製品レポート(1)：名刺より小さいレーザー走査式超小型プロジェクタ

製品名：MEGA1-F1

MEGA1 Co., Ltd (英錡科技股份有限公司)

新北市中和區建八路16號

<http://www.mega1.com.tw>

まずはアンバンドル(Unbundle)グループの製品紹介を3つ。最初に紹介するのは、スマートフォンのUSB Type-C端子に接続するだけで映像が近くの壁などに投影できる超小型プロジェクタである。アプリ不要で接続するだけで使えるところ、ピント合わせが不要なところが最大の特徴である。(現在のところiPhone対応機種は開発中とのこと)

三原色半導体レーザーを超小型反射鏡(MEMSミラー)で反射させ、照射点を左右上下に振って

映像を投影する「レーザー走査式」を採用している。液晶パネルや投影レンズを必要としないため超小型にできる特徴があり、本製品も縦横が7×4センチと名刺より小さく、厚さ0.95センチ、重量30gと非常にコンパクトにまとめられている。

同社は設立時からレーザー走査式プロジェクタの超小型モジュールの開発・量産を手掛ける。最小で32.23×30.29×5.24ミリメートルの超小型モジュールも量産に成功している。この技術力をアピールするためにも消費者向け製品として本製品を開発したとのこと。

また、投影時にフォーカス調整が不要なことも興味深い特徴である。レーザーポインターはどこを照射してもフォーカス調整する必要がないように、レーザーの点で映像を映し出すため、映像がぼやけたり、ピントがずれたりしない。湾曲したヘルメットの面や眼鏡にも投影できる。

また、ロボットに装着して、小さな照射口から映像が投影できる。映画「スターウォーズ」でロボット「R2D2」が内蔵プロジェクタを使って立体映像を再生するという場面があったが、平面映像であれば、ロボットにMEGA1のモジュールを内蔵すればすぐに実現可能。現在、有力な出力デバイスである液晶ディスプレイなどを根本から置き換える可能性がある近未来を感じさせる技術といえるだろう。



写真3 凸凹のある衣類の上でも焦点があった映像がシャツにしっかりと映し出される。距離により投影される映像の大きさは変わるが、ピント合わせがいらないのが特徴



写真4 スマートフォンのUSB Type-C 端子に接続するだけで使える。大きさも7×4センチ、厚さは0.95センチ、重量30gと非常にコンパクトにまとめられている

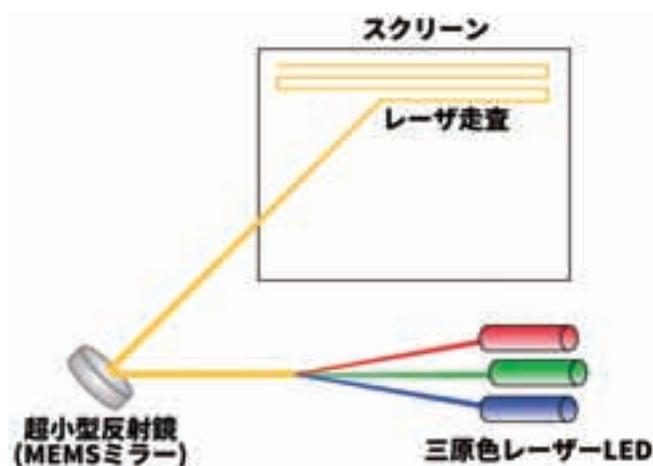


写真5 三原色半導体レーザーを超小型反射鏡 (MEMS ミラー) で反射させ、照射点を左右上下に振って映像を投影する「レーザー走査式」を採用

## ■製品レポート(2)：センチメートル単位で測位可能な Bluetooth 室内測位技術

製品名：「センチメートル級」室内測位技術

Starwing Technology Co. (天奕科技資訊股份有限公司)

台北市中正區新生南路一段 50 號 8 樓之 2

<https://www.starwing.com.tw>

アンバンドル (Unbundle) の2つ目は、10～30センチメートル単位の精度で室内測位が実現可能なシステム。観光・交通・介護・物流などさまざまな分野で活用ができそうな室内測位技術である。

アップルの iBeacon (アイビーコン) など従来

の Bluetooth を使った室内測位技術は、発信デバイスから発信されるビーコン (電波信号) を受信し、その発信元をビーコンから読み取り、その電波強度を計測することで発信元からの大体の距離を知る「RSSI 方式」を採用している。

しかし、この方式では発信元の方角は測定できず、距離も「ごく近い、近い、遠い」の3段階くらいでしかわからず、しかも精度も全く保証されないため、介護分野などもっと正確な位置を測定する必要がある用途では使いづらいのが現状であった。

そういった経験から同社は AoA (Angle of Arrival) 方式を採用した本製品を独自に開発。受信デバイスを天井に設置し、発信デバイスから発信されるビーコン (電波) を受信する際にその入射角度を測定することでフロア上にある発信デバイスの位置を高い精度で検出できる。

通常、こういった高精度な室内測位技術では UWB (Ultra Wide Band、超広帯域無線) が使われることが多く、精度面などでも有利なのだが、敢えて Bluetooth を採用した理由のひとつは、すでに多く普及している Bluetooth の方が、チップセット (半導体) なども数多く供給され、価格もこなれてきているから。特に数を必要とするビーコン発信デバイスの調達に有利。

現在、台湾では SI (システムインテグレータ) と組んだ事業展開を行っており、観光・交通・介護・物流など、さまざまな分野に同社の室内測位技術を普及させようとしている。

ちなみに同社総経理 (社長) の陳宗逸氏は学生時代に台湾最大のレンタルプログサービス「無名小站 (wretch)」の創業に関わっており、同社は2回目の起業となる。すでに台湾政府の国家発展基金などの大口出資も受けており、日本も含めた海外の無線認証なども受け、海外展開にも積極的に取り組む方針である。

AoA (Angle of Arrival) 方式自体は日本でも研

究・開発されており、特に珍しいわけではない。しかし、資金を集め、その技術を実際の実用製品にし、量産して手ごろな価格に下げ、普及できる段階にまで持ち込んだことがすばらしい。みんながその技術の恩恵を受けることができる。この点に眼を向けたことこそ評価に値する。市場の動向を掴み、AoA (Angle of Arrival) 方式を採用した製品をいち早く実用化・販売した同社の動きの速さは我々日本企業も見習いたい。



写真6 壁に立てかけているものが受信デバイス、発信デバイスは腕時計タイプ。天井に受信デバイス設置し、発信デバイスから発信されるビーコン（電波）で入射角度を測定する

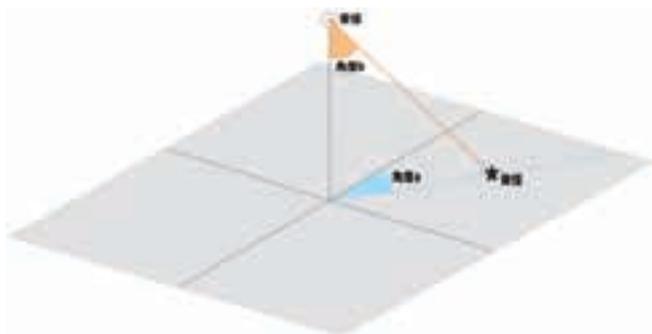


写真7 AoA (Angle of Arrival) 方式の概要。量産して価格を下げ、いち早く実用化、販売に動いたスピードを評価したい

### ■製品レポート(3)：乳児の呼吸までベビーマットで測定できる、光ファイバーを使った生体情報センサー

製品名：UBabyCare Huijia Health Life Technology Co., Ltd (滙嘉健康生活科技股份有限公司)

新竹縣竹北市生醫路二段2號1樓 A104 室

<http://www.huijiahealth.com.tw>

3つ目は、光ファイバーを使った生体情報センサーである。この製品は光ファイバーが振動で変形すると内部を通る光が減衰するのを利用し、それを独自の演算方法で分析することで、呼吸・心拍数・脈拍・血圧・睡眠分析・体の動きなどの生体情報をかなりの精度で取得することを可能にした。

センサーは光ファイバーが入ったマットとなっているが、実際に少し触れただけでもすぐに反応があった。そういったマットを数センチの厚みがあるベビーマットの中や枕の下に置いてもマットを通じて伝わる振動を検出し、実用上問題ないレベルの生体情報を取得できるという説明もたいへん驚かされた。すでに乳児やお年寄りの看護・介護で同社商品が使われており、着実に実績を積んでいるとのことである。

センサーが敏感なだけに、必要な情報だけを取得する、逆に言うと余計な「雑音」を除去するノウハウを合わせて、この光ファイバーセンサーを使いこなしている独自技術に注目。これまで腕時計型、指輪型、靴型、懐中型、ペンダント型などの「ウェアラブル端末」、もしくは布に電気を通しやすい素材を折り込み、ウェアラブル端末の電極として作動できるようにした「スマートウェア」などの身に着けることができる機器でこういった生体情報を計測する展示が多くあった。

しかし、こういった製品の多くは電極を体につける、姿勢を固定する、採血するなど、患者へ不快感や苦痛などを与える。さらに、測定デバイスが人体に密着していなければ、測定環境が安定せず、医療レベルの正確なデータを取ることが難しいという点が課題だった。どうしても正確さと手軽さを両立させることが難しく、現状ではこういった生体情報センサーのさらなる改善・工夫が待たれるところである。



写真8 光ファイバーが入ったマット。振動による光ファイバーの変形で内部を通る光が減衰することを利用し、独自の演算方法で分析。呼吸・心拍数・脈拍・血圧・睡眠分析・体の動きなどを高い精度で取得する



写真9 センサーが入ったベビーマット。乳児の動きをマットを通じて伝わる振動で検出。お年寄りの介護・看護の分野でも実績を積んでいる

#### ■製品レポート(4)：身振り手振りで感情表現する、子供向けの家庭用ロボット

製品名：DANNY

NUWA Robotics Corp.(女媧創造股份有限公司)

台北市中山區南京東路三段 101 號 9 樓

<https://www.nuwarobotics.com>

ここからはリバンドル (Rebundle) の分野、注目製品を 3 つ紹介する。Computex 2018 では家

庭用ロボットの展示が多く見られた。数多くの出展の中で、最も完成度が高く、本格的な普及を狙った取り組みをしているのが本製品である。社名の「NUWA」(中国語で「女媧」とは古代中国神話に登場する人類を創造したとされる女神であり、こうした命名からも同社の意気込みがわかる。

この製品の肩の部分に注目していただきたい。(写真 10) 肩の関節が真横よりかなり前についていることにお気づきだろうか。これは顔の前で腕を動かすことを可能にし、より自然な身振り手振りでの意志・感情表現(ジェスチャーによるコミュニケーション)を行うことに重点が置かれているためである。さらに、頭部の液晶ディスプレイに映像で表示される顔の表情が加わり、ジェスチャーと表情で立体的な意志・感情表現が可能となる。

この製品は子供がいる家庭で安心して使ってもらうためにあちこちに気配りが見て取れる。たとえば、握手しようとしてロボットの腕に触れると、関節を動かすサーボモータに不要な負荷をかけないようにサーボモータがオフになる。また、ロボットを持ち上げたり、机の場所など不安定な場所に置いたり、不自然な使い方をすると警告画面が表示される。さらに、充電ケーブル接続中はケーブルの絡まりを用心して一切動かなくなる。

価格についてもたいへんリーズナブル。中国大陸での初回販売価格は 1,999 人民元。日本円では 3 万円を少し超える程度。普及を狙った戦略的な価格設定とも言えるだろう。創業者や幹部の多くが台湾 ODM ベンダー(製造代行)の出身である上に、台湾 Honhai(鴻海)、中国大陸の Xiaomi(小米)などから大口出資を受け、「家電」としての量産体制も整いつつある。

もうひとつこの製品の特長は同社の開発リソースを適切に集中させていること。同社は先ほど述べたサーボモータとその制御、腕を使った身振り手振りでの意志・感情表現、画像認識(リンゴを見せると「これはリンゴ」と音声で答えるなど)などに

自社の開発資源を集中して開発に取り組んだ。

逆に、AI アシスタント機能は他社の技術を使っている。たとえば、中国大陸では Xiaomi（小米）が開発した技術を使う。恐らく自社で開発しても先行している Amazon や Google や Microsoft を上回るのは難しいし、各種言語への対応を考慮すると現実的に開発は難しい。

現在すでにある技術を使いこなし、そこに独自技術をうまく組み合わせたことで、完成度の高い製品になった。子供向けの家庭用ロボットにフォーカスしたこともマネジメント的には興味深いところだ。



写真 10 肩の関節の位置に注目。通常より前の位置にあるため、腕を顔の前に出すことができる。さまざまなジェスチャーを可能にした



写真 11 ロボットと握手。モーター制御、充電時の配慮など、使う側の立場になって製品開発に取り組んでいる姿勢がよくわかる

## ■製品レポート(5)：独自のノウハウで 3D プリンターを開発

製品名：KING Series 3D Printer

KINGTEC TECHNICAL CO., LTD. (美洛克工業股份有限公司)

新竹市凌雲街 38 號 1 樓之 5

<https://www.kingtec-tw.com>

リバンドル (Rebundle) の 2 つ目は、独自の技術力で 3D プリンターの独自開発に取り組む事例。従来、この会社はギヤ減速装置 (歯車) や精密機械部品の製造を行っていたが、その中で三次元図面作製ソフト (CAD) や CAD で生成された形状データを基に加工データの設定を行うソフト (CAM) のノウハウを積んでおり、それを活かして独自に 3D プリンターの開発を始めた。印刷に大きく関係するプリントヘッドや印刷材料 (フィラメント) の送り出しの機構も含めて同社自主開発である。

フィラメントには PLA (トウモロコシを主原料とした生分解性素材) 以外にもゴムのような弾力性のある TPU、ABS (強化プラスチック)、TPE、PA、PE、PETG、HIPS、PVA などさまざまな素材を使うことが可能。

また、製品の筐体も鉄骨構造から柱構造に変わり、強度が上がったことで輸送時の衝撃によるゆがみの心配が少なくなり、また筐体組み上げ時の調整・校正の手間を減らすことで台湾外への輸出も容易になった。

ここ数年、連続で Computex に出展しているが、徐々に出展ブースを拡大し、同時に製品の完成度も向上しており、同社の成長が見て取れる。研究室やメーカーなどでの試作コストを抑えるためのプロ仕様の 3D プリンターとして、今後とも使いやすさやコストパフォーマンスを重視していきたいとのコメント。

Computex を目標に年々改良に取り組んできた

成果が Computex で世界中から集まるバイヤーにお披露目される。こうやって自社の専門性や強みを磨き、地道に製品の完成度を上げてくる台湾企業を毎年見るのはとても楽しみである。

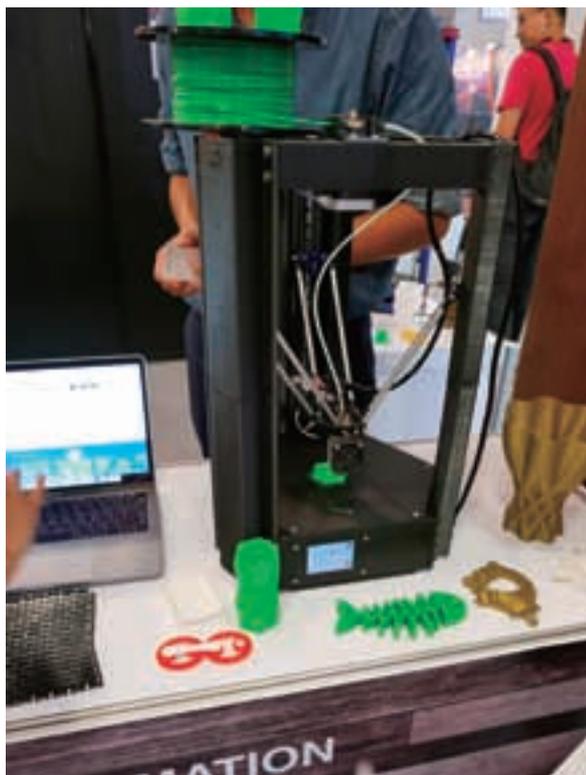


写真 12 写真は展示用に柱部分も 3D プリンターで製作した特別バージョン



写真 13 部品を先に作って後で組み合わせたわけではなく、最初から最後まで同社の 3D プリンターで作成

## ■製品レポート(6)：容易に入手可能なハードウェアで中国医学を学習した AI による診断が可能に

製品名：自動舌診システム

Image Processing Laboratory, Department of Computer Science and Engineering, National Sun Yat-sen University (国立中山大學 中山大學資訊工程學系 影像處理實驗室)

高雄市鼓山區蓮海路 70 號

<http://image.cse.nsysu.edu.tw>

日本とは違い、台湾では中国伝統医学由来の「中医」がまだ健在で、健康保険も適用される。中医の主な診断方法の一つとして、舌の面積、長さ、形、色、表面の様子などを見る「舌診」というのがあるが、この製品はこれを AI の画像分析で行うというものである。

3つ目のリバンドルは容易に入手可能なハードウェアで開発した自動舌診システム。特に素晴らしいと思ったのは、システムが市販のデジカメ、接写用フラッシュ、PC などを活用していること。導入コストが低く抑えられるようになっている。また実際の使用状況に合わせて、舌と 12 色のカラーチャートを併せて撮影し、照明や機器による色の差が補正できるようにしていることである。

関係者の説明によると、病院との協力で実験を行った結果、コレステロール血症、高血糖や乳がんなどの診断正確度は 80% にまで高まっており、今後、他の疾病の診断にも応用していく予定であるとのコメント。期待したい。

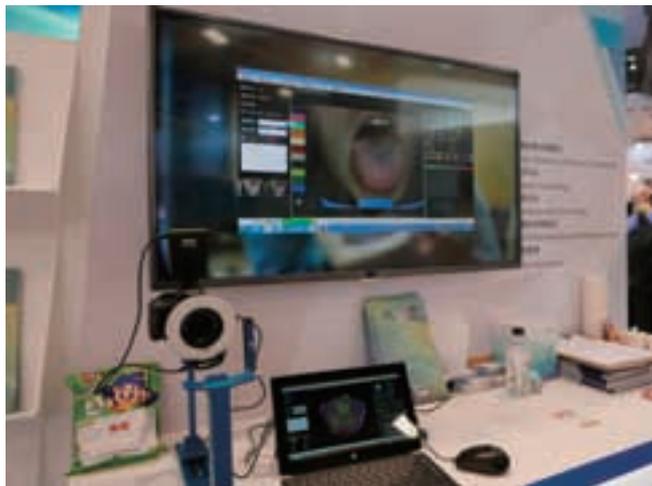


写真14 市販のデジカメなどを使いコストを抑えた。容易に入手可能なハードウェアで開発した自動舌診システム

## ■製品レポート(7): オーディオマニア必見! コンクリート製の Bluetooth スピーカー

製品名: コンクリート Bluetooth スピーカー  
LEXIN OPTO CO., LTD. / QIZHI (綠星光電有限公司 / 器質設計有限公司)

台南市中西區樹林街二段 33 號 (LEXIN OPTO)

<http://www.lexin-opto.com.tw>

<http://www.qizhi.co>

ここからはガジェット (Gadget) 的な製品紹介を3つ。最初はコンクリートで作った家庭用スピーカーだ。オーディオマニアがスピーカーの下にコンクリート製のブロックを置くことはよくある。それならばいっそのことスピーカーの本体をコンクリートで作ってしまおうという発想から生まれた製品だ。出展は LEXIN OPTO からだが、実際のデザインなどを手掛けているのはデザインチームの QIZHI、これまでもコンクリートを使った植木鉢、ランプソケット、ノートなどを手掛けている。

コンクリートのような固い素材は振動の影響を受けにくく音質によい。また、見た目にもコンクリートの質感がインテリアとしてもよい。量産の

予定はこれから検討するそうだが、筆者としてはぜひ製品化してほしい楽しみな製品である。



写真15 インテリアとしても質感の高いデザイン、ぜひ欲しくなる製品だ

## ■製品レポート(8): 美術館・博物館に最適、スピーカー非搭載の拡声器

製品名: WM-Fi

MAXON CREATIVE INC. (麥成文創有限公司)

台北市松山區八德路四段 520 號 5 F-1

<https://www.maxoncreative.com>

2つ目のガジェット (Gadget) はスピーカーを搭載していない拡声器。一見すると薄型でお洒落な拡声器に見えるが、実際はスピーカーがない。工場見学や展示会の視察でガイドさんがマイクを片手に説明をしている風景をよく見かける。肩から拡声器を下げてグループに声が届く大きさボリュームで展示品の紹介などをする。

しかし、この製品は無線 LAN (Wi-Fi) の基地局として動作し、専用アプリをインストールしたスマートフォンから接続すると、スマートフォンでイヤホンからツアーガイドや解説員の説明を聞くことができるという仕組みである。

大きな音が出せない美術館や博物館では通常の拡声器は不適當である。しかし、無線受信機をレ

ントルする場合、入場者が増えれば増えるほどレシーバーの数が必要となり、導入コストが膨大となる。しかし、この製品ならレシーバーを導入するコストがそのまま削減できる。スマートフォンなら入場者の多くが持っており、ここに目を付けたのはまさしくコロンブスの卵的発想といえるだろう。



写真16 スピーカーを搭載していない拡声器。無線LAN (Wi-Fi) の基地局として動作し、説明は各自が持っているスマートフォンで聞く。レシーバーを準備する必要なし。コストダウンにもなる

## ■製品レポート(9)：軽量コンパクトな定点コマ撮り専用カメラ

製品名：ATL-200-BL

Afidus Ltd. (菲達視科技有限公司)

新北市中和區建一路186號7樓之4

<http://www.afidus.com>

ガジェット (Gadget) の最後は定点コマ撮り専用カメラである。たとえば、360日に及ぶ建設風景を、同じ場所・角度 (定点) から1時間おきに写真を撮り、後でそれを動画として再生することで、数分で早送り再生する「コマ撮り」という撮影手法がある。これを行う専用のネットワークカメラである。ネットワークカメラなので無線LAN (Wi-Fi) 経由でスマートフォンからズーム

などの操作も可能で、また赤外線人感センサーによる自動シャッターにも対応している。

本体の大きさ 71.85 × 90.7 × 43.3mm、重量 140g (バッテリー抜き) と簡単に設置できる程度に小型で、防水・防滴、さらに単三アルカリ電池4本で、たとえば撮影頻度を上げて5分に1回の撮影なら数週間、たとえば1時間おきに撮影するなど撮影頻度を下げればさらに電池が長時間の撮影が可能。屋外でコマ撮りをするためにさまざまな機能が搭載された製品だ。



写真17 建設現場で建物ができあがっていく様子を「コマ撮り」で撮影。設置するだけで継続撮影、3か月を30秒で再生。製品写真 (同社パンフレットより)

## ■製品レポート(10)：日台企業のコラボレーションが生み出した新製品、ブロックを組み立ててさまざまな機能を持つ自分だけのIoTデバイスが製作可能

製品名：Tibbo-Pi

台湾側：Tibbo Technology Inc. (集博股份有限公司)

台湾新北市汐止區康寧街169巷31號9樓之3

<http://tibbo.com>

日本側：CO-works Co., Ltd. (株式会社コー・ワー

クス)

宮城県仙台市青葉区一番町 1-8-10 京成壱番町ビル 203

<https://co-works.co.jp/tibbo-pi>

最後に、日台アライアンスの成功事例のひとつを紹介したい。製品名は「Tibbo-Pi」、ブロックモジュール型の IoT デバイスである。この製品はさまざまな機能が納められたカラフルなブロック型のモジュールを基板の上に差し込むことで自分だけの IoT デバイスが製作可能な製品である。

各種センサーモジュールがブロック化されている。その上、RS232/422/485 トランシーバ、フォトカップ入力、リレー、アナログ入出力、赤外線送受信、デジタル・ポテンショメータ、CAN などさまざまな I/O 機能に関するブロックがより豊富にそろえられている。

また、専用ケースが用意されており、基板を覆うようにケースを装着。見た目に基板むき出しではなく、ケースに収めてプロの仕上がりを可能にした IoT デバイスだ。これによりホビーや教育目的などだけでなく、工場などの産業用途での使用に十分に耐える仕様となっている。

この製品を惚れ込んだ日本側が交渉を重ねて、共同開発を持ち掛けた。Computex2017 でのことである。しかし、開発元である Tibbo 社の独自 OS・開発環境の製品であったため、使いこなすためには若干の手間と時間を要し、誰でもが使いこなすにはかなり敷居が高い製品だった。

こうした点を改善するためにコー・ワークス社では世界中のプログラマーから厚い支持を集めるシングルボードコンピューター「Raspberry Pi」(ラズベリーパイ) から Tibbo 社製品を制御できるようにする拡張ボード「Tibbo-Pi」を開発。その結果、使い勝手が格段によくなった。Raspberry Pi 上で動くため、Python や C だけでなく、GUI を利用した習得容易なフローベースの

開発ツール、Node-RED も利用可能。利用にあたっての敷居が一気に低くなった。

現在、Tibbo 社と共同でグローバル展開を模索中。日本でのビジネスはコー・ワークス社が窓口となる。この製品はまさに日台双方の英知を結集して生みだされた製品といえるだろう。筆者もこの両者の間に立ち、製品開発を支援してきた。Computex がきっかけとなった日台アライアンス事例のひとつである。こうした動きに続く事例が出ることを期待したい。

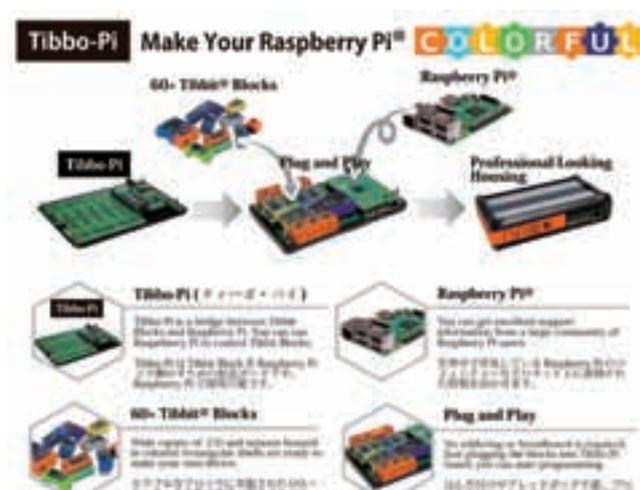


写真 18 Raspberry Pi から制御を可能にする拡張ボードを開発。使い勝手が格段によくなった。製品写真 (同社パンフレットより)

※来年の Computex2019 & InnoVEX2019 は 2019 年 5 月 28 日 (火) から 6 月 1 日 (土) まで。このレポートの内容に関して詳細は TCA 東京事務所 [ippc@tcatokyo.com](mailto:ippc@tcatokyo.com) まで。

## 台湾茶の歴史を訪ねる 第八回



## (8) 日本に輸出された台湾煎茶

須賀 努 (コラムニスト / 茶旅人)

前回は日本統治時代の台湾緑茶について、分かる範囲で報告してみた。だが台湾の緑茶製造が本格化するのには光復後であり、しかも炒青、蒸青の2つの製法で、一時代を作っていたことは、茶業関係者以外、あまり知られておらず実に面白い。アフリカ、そして日本も登場する輸出の舞台を見てみよう。

## アフリカ向けの緑茶輸出

第二次世界大戦終結後、日本は台湾から去り、その帰属も曖昧になっていた。1948年、中国大陸がまだ内戦で混乱する中、イギリスの協和洋行(ロバート・アンダーソン)が台湾に支店を出し、モロッコなど北アフリカでニーズのあった釜炒り緑茶の製造を検討する。ただ当時台湾には本格的な釜炒りの技術はなく、上海から緑茶製造の専門家を呼び寄せ、大いに貢献したのが唐季珊だった。この大陸式緑茶製造(珠茶など)は成功し、瞬く間に桃園、新竹などに12の茶工場が出来たという。唐は上海の華茶公司を台湾に移転させ、協和洋行と共同で、1949年より本格的にその輸出に尽力した。

その後、台湾区茶輸出公会の理事長も務めた唐だったが、晩年の彼の姿を知る黄正敏元理事長によれば、『唐さんの緑茶輸出における台湾への貢献は大きかったが、自身の商売はそれに見合う業績を上げられなかったため、経済的には恵まれなかった。ただどんな時もきちっとした身なりをして歩いていたのをよく覚えている』と述懐する。尚、黄氏には光復後の台湾緑茶輸出の歴史全般について、多くのことを教えて頂き、今回のアウトラインを掴むことができた。

1954年の記録では台湾緑茶の輸出先の90%以上は北アフリカのモロッコ向けであったが、1960



台湾茶輸出の歴史を語る黄正敏氏

年には同国(及びアルジェリア)が茶葉輸入を制限する政策を実施し、大きな影響を受け、協和洋行は、台湾茶の貿易から撤退したという。紅茶の歴史でも見てきたが、台湾茶の輸出は60年代に苦境を迎え、廃業を検討する会社も増えていた。

ただその後も北アフリカ向け釜炒り茶には一定量の需要はあったようで、1980年にはリビアから緊急の緑茶輸出要請があり、250トンを送った。その際、個別茶商ではなく、統一団体としての『台湾緑茶廠聯合輸出公司』を設立したと、新竹関西の老舗、錦泰茶廠の羅氏は語る。『相手が国レベルの団体を要求したから』ということらしい。だがそれも80年代半ばになると、改革開放後の中国緑茶に市場を奪われ、撤退。台湾釜炒り緑茶の輸出は幕を閉じた。



1980年にリビアに輸出した茶箱（錦泰茶廠）

## 日本向けの台湾煎茶

1960年代になると、日本で高度成長が始まり、それに合わせて煎茶の需要が伸びていくが、農村の働き手が都市に働きに出てしまい人手不足が生じていた。一方台湾茶の輸出競争力は、工業製品同様に、他国商品との競合、人件費などコストの上昇、台湾元高などの要因が立ちはだかつて来た。1966年に日本へ視察に行った羅慶士氏（第2回台湾紅茶の輸出に登場した関西紅茶オーナー）は、日本の煎茶に可能性を見出したという。

茶業が斜陽傾向にあった台湾で煎茶を作り、日本へ輸出するというのは両者のニーズが合致した結果だったと言えるだろう。関西紅茶では70年に日本から中古の製茶機一式を買い込み、蒸し製緑茶の生産を開始した。最初は神戸のコーヒー会社が大半を引き取ってくれていたが、その後徐々に需要が拡大。羅さんは日本全国を飛び回って売り込みに努めたと楽しそうに語る。勿論これは煎茶の原料としてブレンドされたり、粉末茶として販売されたので、台湾で作られた緑茶だとは誰も気が付かない。日本人は知らないうちに台湾緑茶を飲んでいた可能性がある。これは日本の高度成長期の副産物だったといえるだろうか。

中国大陸では政策によって、紅茶生産を緑茶に

切り替えることを俗に『紅改緑』といった時代があるが、台湾でも1960年代にこの『紅改緑』が起こっていたのだと思う。同時に台湾人が飲むための烏龍茶が出始めたのもこの時期であり、1970年付近は台湾茶業の分岐点であったといえるだろう。ただ我々日本人は烏龍茶を知っていても台湾緑茶の存在を知らない。業者も敢えてそれを言い出す必要はないので、この歴史は実にひっそりと進行していたようだ。

## 龍潭の緑茶

あまり知られてはいないが、桃園市龍潭は往時のモロッコ向け、日本向け緑茶生産の場所、それも新竹などと並び、歴史的にも多品種、大量生産を誇る一大茶産地だと言える。ここで100年以上に渡り茶作りをしているという新福隆を訪ねた。古びた茶工場が何とも歴史を感じさせる。現在茶工場を仕切る若手の葉書察さんが色々と説明してくれた。

この付近は150年前、台湾茶輸出の歴史が始まった頃に、茶樹が植えられ、包種茶や烏龍茶作りが始められたようだ。日本統治時代には紅茶作りを行っており、三井の工場に茶葉を供給していたともいう。日本が去った後に、炒青緑茶が導入され、アフリカ向け輸出が行われ、70年代には煎



龍潭にある新福隆の茶工場

茶作りも行われたというのも、前述の緑茶の歴史が新竹だけでなく、桃園でも行われたことを物語っている。

もう一つ、福源茶業を訪ねると、黄文諒さんが、すぐに工場を案内してくれた。かなりの奥行きがあり、紅茶や烏龍茶の製造機械と並んで、珠茶（ガンパウダー）作りがまさに行われており、思わず目が行ってしまう。この茶がアフリカなどへ輸出された主力商品だったのだ。今では輸出はほぼなくなり、台湾内に需要があるということで作ってはいるが、その製法も以前とは少し違っていると黄さんは説明する。

1911年創業という福源は、その時代の変化に合わせて、包種茶、紅茶、花茶、煎茶などあらゆるお茶を作って来たという。その茶工場の2階に上がると、あまりにも広い倉庫に茶葉が山積みされている。『最盛期は茶葉が天井まで届き、早く出荷しないとスペースがなくなるほど。スタッフも不眠不休で製茶、包装、出荷作業に当たった』と懐かしそうに話す。製茶事業というのは、高級茶を作るばかりでなく、適度な品質の茶を大量に輸出する産業なのだと理解でき、その迫力が十分に感じられた。

煎茶については1966年に組合で日本へ視察に行き、すぐに生産を開始した。最初は木製の機械



福源茶業で作られていた珠茶（ガンパウダー）



今も残る日本煎茶製造機械（新福隆）

だったが、その後大型自動ラインを導入したものの、当初の約束と異なり、日本側の市況悪化で、静岡の業者から発注のキャンセルがあり、かなりの損害を被り、そのまま止めてしまったという。1973年頃の話らしい。日本のオイルショックと重なる時期だ。日本向け煎茶の歴史は10年足らずで終焉を迎えたということになる。

苗栗のある工場を訪ねると、そこに日本製の製茶機械が無造作に置かれているのを目にした。筆者を日本人と思わなかった工場長は『本当に日本人にはひどい目に遭ったよ。煎茶を作ってくれればいくらでも買い取ると言って中古機械を売りつけていったが、翌年状況が変わったと言っていくらも引き取らなかった。当時の工場長は激怒して、ハンマーでこの機械を壊そうとしていたよ』と憎々しげに言った。中には60年代の木製機械に火を点けて燃やしてしまった、という話まで出てきて、日本煎茶の輸出については、我々が知らない日台の複雑な歴史もあるように思えた。

### 三峡の碧螺駿

実は台湾緑茶には内需もあった。それは光復後、蒋介石と共にやって来た外省人の存在だった。外省人は浙江省など華東出身者も多いが、国民党軍として従軍していた山東など、北方人も多く含



三峡碧螺春の作り手 黄文雄氏

まれていた。今でもそうだが、北方人は、緑茶や花茶を好む傾向にある。故郷の味が恋しい華東人も合わせて、釜炒り緑茶へのニーズがあったのも頷ける。

現在の新北市三峡。ここでは光復直後に、釜炒りの三峡龍井茶が作られていたという。小雨が降る中、敢えて新店から車で三峡まで走ってみた。僅か山を一つ越えるだけで三峡に着いてしまう。この道も茶葉の輸送ルートだったのだろうか。三峡で有名な茶師、黄文雄さんが迎えてくれた。

日本統治時代、この付近に三井の大寮茶工場があり、茶農家は紅茶の原料を生産し、工場に引き渡していたようで、緑茶生産の痕跡は見られない。



三峡龍井茶の復活を目論む（大埔茶業）

だが光復後、このあたりでは確かに龍井茶が作られていた。同時に包種茶や花茶も生産していたようだ。その生産は1970年代の輸出不振及び外省人需要が一段落して萎んでいく。その中で黄さんはずっと茶作りを続けてきた。そして30年ぐらい前に碧螺春の生産が始まる。これは緑茶の輸出から内需への転換だったという。規模は小さいがコンテストも始まり、ずっと賞を取り続けた。

そして2000年以降、例えばSARSの折に、緑茶を飲むのがよい、などの噂が流れ、少し陽の目を浴びだした。ここ数年は、清香型の高山茶などがブームとなり、そのお陰か、また有機茶園への関心が高まり、黄さんの有機緑茶を求める台湾人も出てきたという。筆者も『三峡碧螺春』というブランドの茶を初めてみたのは4年ほど前だった。因みにこの付近は150年前海山堡と呼ばれており、かのイギリス商人、ジョン・ドッドがこの良質な土地に目を付け、茶樹を植えたとの話もある。そこから海山緑茶と呼ばれることもあるが、ドッドが望んだのは緑茶ではなく、烏龍茶だったのだろうか。

## 名間の蒸し製緑茶

南投県名間郷の比較的平らな土地、その中に見慣れぬ看板を見つけた。『蒸青緑茶』、これは一体何を作っているのかと中に入ってみる。角色茶業の林育源さんが案内してくれた。そこには日本製の蒸し器などが置かれ、煎茶や抹茶を作っている。

従来台湾では煎茶はもう生産されていないし、そもそも台湾人にはあまり好まれないなどとも聞いていたが、最近は様子も随分と変わってきており、また日本との関係、抹茶ブームなどもあり、ある意味、ビジネスチャンスは広がっているらしい。

特に粉末茶のニーズが高く、これを使って、菓子や飲料などに混ぜているらしい。いまアジア各地で起こっている抹茶ブームなどは、あるいは台湾人が仕掛けたのではないかと疑ってしまうほ



名間の蒸し製緑茶（角色茶業）

ど、その動きは早い。ただそれを『抹茶』と称するには色々と議論はあるだろうが、日本茶を海外に広めるといふことは、やはり仕掛けと仕組みが必要だと痛感する。

尚、最近台湾のコンビニなどには『台式緑茶』『日式緑茶』『日本緑茶』と実にバラエティに富んだ緑茶飲料が並んでいて驚く。台式は釜炒り茶、日式は蒸し製緑茶が原料となっているとわかるが、日本緑茶とは原料の茶葉が日本から輸入されているということだろうか。

因みに台湾区茶輸出業同業公会によれば、台湾は従来の緑茶輸出から輸入に切り替わっているという。2000年代に入り、特に日本からの緑茶輸入が急増しており、2004年に比べて2017年には20倍近い、年間900トンを入力している。台湾緑茶の歴史は今後輸入の歴史となるのかもしれない。

## 港口茶は緑茶なのか

最後に台湾緑茶の発祥について補足したい。前号で述べた1922年の台湾製茶品評会では、褒賞として苗栗の森藤平と並んで高雄洲恒春郡の朱乾亮という名前も挙がっていた。恒春の朱と言う苗字には聞き覚えがある。これはあの台湾最南端の緑茶とも呼ばれている港口茶を作っている朱一族の祖先に違いない。そうだとすれば、この港口茶

こそが、台湾で一番古い緑茶だということもできるかもしれない。

台湾最南端の観光地、墾丁ビーチのすぐ北、恒春の東10kmにある満洲郷は、公共バスも朝夕1本ずつしか通っていない、陸の孤島だった。ここに茶畑があると聞いて、訪ねて行ったことがある。その茶畑は、海が見渡せる小高い丘の上にあり、爽やかな風が吹き抜けていく。ただその茶園面積は決して広くはない。

この地で現在茶作りをしているのは3軒しかないと聞き、その内の1軒を訪ねた。4代目という朱松雄さんの説明によれば『1875年、清朝は恒春県を設置し、その初代県知事、周有基が福建から赴任。彼はお茶が大好きで、武夷の茶苗を持ち込んだ。その時朱家初代がその苗を植えたと伝えられている』となる。そして1894年の県誌には、海辺に少数の茶樹が植えられていたとの記載があり、この地で茶が栽培されていたことが確認できる、という。

ただ訪ねた時に飲ませてもらった茶は2種類。焙煎していないものは微かな発酵茶の感じがしたし、焙煎した物は日本でいえばほうじ茶のような味がした。このお茶が緑茶なのかと率直に聞いてみると『長い年月の間に様々な改良がなされた』と言ひ、茶樹の品種も元々は武夷種だったかもし



港口茶の茶畑

れないが、その後自然に交配し、今や独特な雑種になっていると聞いた。

この話を後日、ある茶の専門家にしたところ、『もう一度行って朱金成さんを訪ねてみる』と言われた。全くの半信半疑で、南の果てまで訪ねていくと、道路と茶畑のちょうど間に、正宗港口茶と書かれた古びた建物がああり、そこにはレンガで出来た製茶場もあった。ここが朱金成さんの家だった。

金成さんは、古びた印を持ち出し、『これが往時茶の包装の上に押していた印だ』と見せてくれた。だがそこにも緑茶といった表現はない。ただそこで飲ませてもらった茶は、松雄さんのところで飲んだお茶よりも色、味共に緑茶に近かった。茶園は同じ場所なので、製法の違いだと思われた。

この時初めて『緑茶とは何だろうか』と考えてしまった。定義上、緑茶は『不発酵茶』などと書かれており、現に日本の煎茶などは摘んだ茶葉を短時間で処理している。だが中国や台湾で緑茶製造現場に行くと、かなり長い時間摘まれた茶葉が置かれており、これを台湾では『静置』と呼んでいる。細かいことを言えば、この間にも微かな発

酵は起こっているだろう。

ただ台湾の茶関係者のほぼ共通した認識は『静置した茶葉を攪拌（意図的に茶葉の発酵を促す）したら、発酵茶に入る』というもので、この定義で言えば、朱松雄さんの現在作っている港口茶は改良を重ねた結果、攪拌作業をしているので発酵茶、金成さんのお茶は伝統的な製法で攪拌がない（または僅かな攪拌しかしない）ので、緑茶の分類に入る、というのが、1922年の品評会での回答かもしれない。但しこの品評会では他の緑茶は『緑茶』と表示されているのに、朱さんのものだけが『粗製緑茶』と書かれており、その違いにもちょっとした違和感がある。

いずれにしても、港口茶の生産量は非常に少なく、また近年珍しいお茶として脚光を浴びるまで100年もの間、細々とその狭い地域でだけ飲まれる、主に老人が好む茶として生産されてきた歴史がある。また日本統治時代以前にこのお茶が緑茶として作られていたのかは定かではないこともあり、今回の緑茶調査の番外編として、参考までに報告することとした。

## 台湾における選挙管理

松本充豊（京都女子大学現代社会学部教授）

### 1. はじめに

本年、2018年は台湾でおよそ2年に一度の選挙イヤーである。11月末には統一地方選挙（現地では「九合一選挙」と呼ばれる）が予定されている。各党では主な公認候補がほぼ出揃い、事実上の選挙戦がすでに始まっている。

民主主義社会における選挙の重要性はいうまでもない。そのため、選挙研究は現代の政治分析において最も重視されてきたし、事実、政治学では最も研究が進んでいる分野のひとつである。それは日本だけでなく台湾においても同様である。しかし、選挙管理については、選挙そのものに比べると地味な活動であるためか、あるいは単純に行政技術的なものと捉えられる傾向が強いせいか、政治学や行政学の視点からはほとんど研究がなされてこなかった。選挙管理に関する政治学的・行政学的な研究が本格的に始まったのは、世界的に見てもつい最近のことである<sup>1</sup>。

選挙管理というのは、世界各国において選挙制度と同じく、実に多様なものである。台湾で採用されている選挙管理のあり方も、実はその一種に過ぎないのである。それでは、台湾の選挙管理はどのような特徴を持っているのだろうか。本稿では、台湾における選挙管理のあり方および選挙管

理機関である中央選挙委員会の制度的な特徴を紹介して、それを踏まえて選挙結果への信頼を高めるうえで重要とされる中央選挙委員会の独立性について考察してみたい。その前に、まずは選挙管理とは何かについて説明しておきたい。

### 2. 選挙管理とは何か

#### （1）選挙管理の本質的要素

選挙や選挙結果の信頼性を保つための前提となるのが、公平で公正な選挙管理である。選挙管理の公平性や公正性が担保されなければ、選挙結果の信頼性は保たれず、ひいては政治体制を不安定化させることにもなりかねないからである。

それでは、選挙管理という言葉を目にして、私たちは何をイメージするだろうか。多くの人が投票所での投票や開票作業を思い浮かべるのではないだろうか。確かに、有権者による投票がトラブルなく行われるようにすること、そして投票時間終了後には、開票所で開票・集計を行い、選挙結果を決定することは、選挙管理の核心ともいえる作業である。選挙管理制度の改善のための国際的な民間組織である The ACE Electoral Knowledge Network (ACE 〈Administration and Cost of Elections〉 Project by IDEA, IFES and UNDESA: 以下、ACE と表記) は、選挙管理の業務を担う組織や機関のことを選挙管理機関 (Electoral Management Bodies: EMB) と呼び、選挙管理機関は、①選挙人資格認定、②立候補受付、③投票行為指揮、④開票、⑤票の集計という5つの要素を本質的に持つものだとしている<sup>2</sup>。したがって、これら5つの機能が選挙管理の核心であるといえるだろう。ところが、公平で公正な選挙管理

1 大西裕 (2013) 「選挙管理へのアプローチ—政治学と行政学が交錯するフロンティア」大西裕編『選挙管理の政治学—日本の選挙管理と「韓国モデル」の比較研究』有斐閣、2～3頁。同書は、日本における選挙管理に関する政治学的、行政学的な研究の嚆矢といえるもので、本稿の着想や分析の視点、および内容の一部も同書に大きく依拠していることを断っておく。

を行うための作業は、これだけにとどまるものではない。

## (2) 多様な選挙管理

選挙の公平性や公正性を担保するには、選挙管理というものを私たちがイメージするよりも、もっと広く捉える必要がある。例えば、選挙運動に対する監視やそれを伝えるマスメディアへの監視を行うことも、選挙の公平性を担保するのに重要であることは想像に難くない。だとすれば、選挙管理は単なる投票所や開票所の管理だけではすまないはずである。事実、世界の国々では選挙管理機関が選挙人登録、選挙区画定、選挙関連物品調達、有権者教育、選挙運動資金の管理・監督、メディア監視、選挙関連訴訟の解決などの役割を果たしている事例もある。選挙管理機関がこれらの役割をどの程度果たしているのかに違いはあるにせよ、ほとんどの国において、選挙管理機関が担っている機能は、ACE が指摘する5つの本質的な要素に限定されていないのが実情である<sup>3</sup>。

そのため、国際的には、選挙管理は選挙期間の前からその後までを含めて、広く選挙サイクルの中で捉えられるべきだと考えられている。ACE は、選挙サイクルを選挙前の期間、選挙期間、および選挙後の期間の大きく3つに分け、それに合わせて選挙管理の業務を整理している<sup>4</sup>。そこでは、例えば、選挙前の期間の主な作業として、選挙の企画、選挙スタッフの確保や訓練、有権者教育、政党活動の監視、選挙人登録などが挙げられている。選挙期間には、5つの本質的な要素に加えて、選挙キャンペーンの調整やマスメディアの

監視などがあり、選挙後の期間には、選挙管理の評価、選挙事犯調査、選挙訴訟解決、選挙区画を含めた改革、選挙制度に対する助言などの役割がある<sup>5</sup>。

したがって、選挙管理のあり方は多様なのであり、私たちが想像するより広範なものであっても不思議ではない。世界各国の選挙管理機関には、その業務が5つの本質的な要素にほぼ限定されているものもあれば、それ以上に他の機能を担っているものもある。選挙管理機関の「守備範囲」も国によってさまざまなのである。

## 3. 選挙管理機関の多様性

### (1) 選挙管理機関の3つのモデル

選挙管理の業務を担うのが選挙管理機関である。ロペス-ピントール (Rafael Lopez-Pintor)<sup>6</sup>、IDEA<sup>7</sup> や ACE などの国際 NGO は、世界各国の選挙管理機関を、独立モデル、政府モデル、混合モデルという3つのモデルに分類している。

この類型化では、選挙管理機関がまずは政策・監視部門と実施部門に大別されている。政策・監視部門とは、選挙政策の立案、紛争等に対する判断など意思決定に関する部分を担当する部門のことであり、実施部門とは、投票所や開票所の管理などの具体的な選挙管理政策の実施を担当する部門のことである。そのうえで、さらにそれぞれの部門について執政府からどの程度独立した形で制度設計が行われているのかによって、選挙管理機関の3つのモデルに分類されている。

独立モデルとは、それぞれの部門が執政府から制度的に独立し、自律的である選挙管理機関によって選挙が組織・管理されているものである。

2 The ACE Electoral Knowledge Network (ACE Administration and Cost of Elections) Project by IDEA, IFES and UNDESA, "Electoral Management" < <https://aceproject.org/ace-en/topics/em/onePage> >.

3 大西、前掲論文、15～16頁。

4 The ACE Electoral Knowledge Network, op.cit.

5 大西、前掲論文、17頁。

6 López-Pintor, Rafael (2000) *Electoral Management Bodies as Institutions of Governance*, UNDP, pp. 21-25.

7 IDEA (2007) *Electoral Management Design: The International IDEA Handbook*, IDEA, pp. 6-10.

政府モデルは、独立モデルとは逆に双方が執政府の指揮下に属しており、内務省などの政府組織や地方政府が選挙を管理するものである。そして、混合モデルは、政策・監視部門は（独立モデルの選挙管理機関のように）執政府から独立した組織が担当し、実施部門は（政府モデルの選挙管理機関のように）政府の一部局と地方政府が担当するものである<sup>8</sup>。

## （2）3つのモデルから見た選挙管理

選挙管理機関をこのような3つのモデルに分類した場合、世界各国における選挙管理のあり方はどのように捉えることができるだろうか。ロペス-ピントールの調査によると、彼が対象とした148カ国のうち、独立モデルは53%、政府モデルは20%、混合モデルは27%を占めていた<sup>9</sup>。その後、IDEAが2014年に行った調査では、217の国と地域のうち、独立モデルが63%、政府モデルが23%、混合モデルが12%であった<sup>10</sup>。また、2016年に選挙を実施しない国と地域を除いた212カ国を対象に行われたACEの調査によると、独立モデルは67.9%、政府モデルは21.2%、混合モデルは10.8%になっているという<sup>11</sup>。

ロペス-ピントールの調査以降の大きな流れとして、独立モデルの割合が急速に増加しているのに対して、混合モデルは半減していることがわかる。大西裕は、ロペス-ピントールの調査とACEの調査との比較から、かつての混合モデルのうち半数以上、および政府モデルの4割近くが独立モデルへと変化した一方で、独立モデルは93%が独

立モデルのままであることを明らかにしている。つまり、政府モデルと混合モデルを採用していた国々は、急速に独立モデルへと選挙管理機関の形態を変化させているのである<sup>12</sup>。

ところで、ACEによると、多くの新興民主主義国で採用されているのが、独立モデルである。政府モデルは先進国に多く、イギリスやアメリカの選挙管理機関がこれに該当する。混合モデルはフランス、スペイン、フランス語圏のアフリカ諸国で見られるもので、日本の事例はこれに含まれる。ちなみに、台湾の選挙管理機関については、東アジアの新興民主主義国である韓国やモンゴルのそれと同様に、国際的には「独立モデル」という評価で一致している<sup>13</sup>。こうした台湾の選挙管理機関に対する評価は、果たして妥当なのだろうか。その守備範囲はどの程度のものなのだろうか。以下では、台湾の選挙管理のあり方について見ていくことにしよう。

## 4. 台湾における選挙管理

### （1）選挙管理の構造

台湾では、選挙、罷免および「公民投票」<sup>14</sup>（レファレンダム）に関する事務を管理する常設の選挙管理機関として、中央には中央選挙委員会、地方では6つの行政院直轄市（台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市、高雄市）には直轄市選挙委員会、金門県と連江県を含む16の県・市には県市選挙委員会が置かれている。

12 同上論文、25～26頁。

13 Lopez-Pintor, op.cit., p. 28 ; IDEA, op.cit., p. 320 ; The ACE Electoral Knowledge Network, op.cit.

14 台湾でレファレンダムを意味する「公民投票」には「全国性公民投票」と「地方性公民投票」の2種類あり、前者は日本でいう国民投票、後者は住民投票に相当する。中央選挙委員会が主管するのは全国性公民投票であり、地方性公民投票については直轄市政府ないし県・市政府が主管する（「公民投票法」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト（<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=GL000290>））。

8 大西、前掲論文、18頁、および The ACE Electoral Knowledge Network, op.cit.

9 Lopez-Pintor, op.cit., p. 25.

10 残りの2%は国政レベルの選挙が行われていない国々である（The ACE Electoral Knowledge Network, op.cit.）。

11 大西裕（2017）「選挙管理と積極的投票権保証」大西裕編著『選挙ガバナンスの実態 世界編—その多様性と「民主主義の質」への影響』ミネルヴァ書房、25頁。

常設の選挙管理機関として中央選挙委員会が誕生したのは、動員戡乱時期公職人員選挙罷免法が公布された1980年6月のことである<sup>15</sup>。以来、台湾の選挙管理は、中央では中央選挙委員会、地方では、省レベルに省選挙管理委員会（台湾省選挙管理委員会と福建省選挙管理委員会<sup>16</sup>）、県・市レベルに县市選挙管理委員会が設置され、3層構造となっていた。省と同等のレベルである行政院直轄市では、中央選挙委員会の下に直轄市選挙委員会が置かれ、2層構造となっていた。その後、2009年6月に中央選挙委員会組織法が公布され、中央選挙委員会の下に置かれた地方の選挙委員会が直轄市選挙委員会と县市選挙委員会の2種に整理された<sup>17</sup>。

現在、台湾の選挙管理は、地方では直轄市選挙委員会と县市選挙委員会が並立する形で、中央と直轄市、および中央と県・市との間でいずれも基本的には2層構造となっている。こうした各種選挙管理機関の組織や職務権限については、公職選挙法を主とする日本の事例とは異なり、台湾では総統副総統選挙罷免法、公職人員選挙罷免法および中央選挙委員会組織法という3つの法律によって定められている<sup>18</sup>。

## （2）選挙管理機関の守備範囲

中央選挙委員会の組織や業務を定めた中央選挙委員会組織法<sup>19</sup>には、その業務として以下の7項目が挙げられている（第6条）。

1. 選挙、罷免、公民投票事務の総合企画。
2. 選挙、罷免、公民投票事務の処理および指揮・監督。
3. 選挙区画の計画・処理。
4. 選挙、罷免、公民投票監視事務の処理。
5. 政党および候補者の選挙運動資金の補助。
6. 選挙、罷免、公民投票に関連する選挙管理に関する法規の制定、修正および廃止の提案。
7. その他選挙、罷免、公民投票に関連する事項。

台湾では現在、11の選挙が実施されている。中央レベルでは総統選挙と立法委員選挙の2つの選挙が行われ、地方レベルでは直轄市長、直轄市議員、県・市長、県・市議員、郷・鎮・市長、郷・鎮・市民代表、直轄市先住民区長、直轄市先住民区民代表、村・里長を選ぶ9つの選挙が行われている。いずれの公職も任期が4年であることから、選挙は4年ごとに行われる<sup>20</sup>。総統選挙と立法委員選挙はオリンピック・イヤーの初め頃に行われ、過去2回（2012年・2016年）は1月にダブル選挙で実施された。その他9つの地方選挙は2014年から統一地方選挙として実施されている。同じ日に9つの選挙が一斉に行われることから、現地では「九合一選挙」と呼ばれている。本年11月末には、台湾の選挙史上2回目となる統一地方選挙が予定されている。いずれにせよ、11の選挙が国政選挙と地方選挙の2種にまとめられ、現在

15 当時は内政部長が中央選挙委員会の主任委員を兼任し、内政部の職員が同委員会の職務を兼務していた。2000年の中央選挙委員会組織規程の改正に伴い、中央選挙委員会の主任委員は専任の有給職に改められ、同委員会の職務を内政部の職員が兼務する状況も解消された。

16 金門県選挙委員会と連江県選挙委員会は福建省選挙委員会の下に置かれていた。

17 省レベルの選挙管理委員会の組織を定めていた台湾省選挙委員会組織規程と福建省選挙委員会組織規程が2008年3月に廃止されたことに伴い、省レベルの2つの選挙管理委員会は廃止された。

18 これらの法律のほか、総統副総統選挙罷免法施行細則、公職人員選挙罷免法施行細則などの行政命令によって細かな内容が定められている。

19 「中央選挙委員会組織法」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL049425>)。

20 「選挙制度」中央選挙委員会ウェブサイト ([https://www.cec.gov.tw/central/cms/elec\\_intro/24775](https://www.cec.gov.tw/central/cms/elec_intro/24775))。

のところ台湾ではほぼ2年おきに選挙イヤーが訪れる形となっている。

日本の公職選挙法にあたる総統副総統選挙罷免法<sup>21</sup>と公職人員選挙罷免法<sup>22</sup>、およびそれらの施行細則<sup>23</sup>によると、上記の各種選挙の管理主体については、総統選挙および在外華僑枠を含む比例代表選出議員の立法委員選挙は中央選挙委員会、先住民枠を含む選挙区選出議員の立法委員選挙は直轄市・縣市選挙委員会、直轄市の議会の議員および市長の選挙は直轄市選挙委員会、県・市の議会の議員および首長の選挙は縣市選挙委員会、そして郷・鎮・市民代表および長の選挙、直轄市先住民区民代表および長の選挙、村・里長の選挙については直轄市・縣市選挙委員会がそれぞれ管理することが定められている。しかし、実際には選挙を管理する業務の多くが郷・鎮・市・区に設置される選務作業中心に委ねられている。

中央選挙委員会の業務は、こうした選挙における選挙管理の本質的要素の限られるものではない。選挙期間の前からその後まで、選挙サイクル全般に関わる業務を行っている。例えば、選挙の総合的な企画、選挙スタッフの確保や訓練、有権者教育としての啓発活動、総統副総統選挙罷免法・公職人員選挙罷免法違反行為の予防と監視、選挙運動資金の制限額の決定とその補助、さらに公民投票の管理を担当している。特に、総統副総統選挙罷免法・公職人員選挙罷免法違反行為への

対応は積極的で、直轄市・縣市選挙委員会が監察小組（後述）と呼ばれる監視・探索チームを編成・運営し、違反行為を見つけた際には口頭ないし書面では是正・警告・中止命令を出せるほか、処罰を行うことも可能である<sup>24</sup>。また、現在進められている10年に一度の立法委員選挙の選挙区変更作業も、中央選挙委員会の仕事である。日本の選挙管理委員会の業務は選挙管理の本質的要素にはほぼ限られているが<sup>25</sup>、台湾の中央選挙委員会の守備範囲はそれに比べて相対的に広いといえる。

ただし、前述の「選挙、罷免、公民投票に関連する選挙管理に関する法規の制定、修正および廃止の提案」という業務との関わりでは、総統副総統選挙罷免法および公職人員選挙罷免法という選挙管理に関する法律の制定、修正および解釈（「選政」）については内政部の権限とされ、中央選挙委員会は選挙の実施（「選務」）を担当することになっている<sup>26</sup>。

## 5. 台湾の選挙管理機関

### （1）中央選挙委員会

台湾の選挙管理機関である中央選挙委員会は、日本の中央選挙管理会に相当するものだが、執政府との関係ではその位置づけが異なっている。

日本の中央選挙管理会は総務省の附属機関である<sup>27</sup>。これに対して、台湾の中央選挙委員会は行政院（政府）に所属する独立機関である。行政院

21 「総統副総統選挙罷免法」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=GL000293>)。

22 「公職人員選挙罷免法」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=GL000292>)。

23 「総統副総統選挙罷免法施行細則」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL005000>)、および「公職人員選挙罷免法施行細則」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL001997>)。

24 「各級選挙委員会執行監察職務準則」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL004985>)。

25 大西、前掲「民主主義と選挙管理」、25～27頁。

26 いわゆる「選政」と「選務」の区分は内政部の主張によるもので、法律に基づくものではない（ちなみに、台湾で「選務」とは一般的には選挙管理全般のことを指す）。現在、総統副総統選挙罷免法と公職人員選挙罷免法は内政部が主管しており、それに関連する行政命令については内政部が中央選挙委員会とともに定めることになっている。なお、公民投票法については2018年1月の改正により中央選挙委員会が主管機関であることが明記された。

組織法には、行政院は中央二級機関に相当する、中央選挙委員会、公平交易委員会、国家通訊伝播委員会の3つの独立機関を置くと定められている(第9条)<sup>28</sup>。中央行政機関組織基準法によると、行政院に所属する独立機関とは「法律に基づいて独立して職権を行使し、自主的に運用し、法律が別に定めた規定を除き、その他の機関の指揮・監督を受けない合議制機関」(第3条)<sup>29</sup>のことである。中央選挙委員会組織法にも「本会(筆者注:中央選挙委員会のこと)は法律に基づき、独立して職権を行使する」(第5条)とある。「中央二級機関に相当する」というのは、日本の各省庁にあたる行政院の各部・委員会と同じレベルの機関という意味である<sup>30</sup>。上述のとおり日本の中央選挙管理会は総務省の附属機関だが、台湾の中央選挙委員会は総務省にあたる内政部と同じレベルの独立機関ということになる。

「行政院に所属する独立機関」というのは少々わかりづらいので、ここで説明しておきたい。台湾に存在するいわゆる独立機関は2つに大別される<sup>31</sup>。ひとつは、憲法で定められた独立機関のことで、司法院、監察院、考試院などがこれに相当する。もうひとつは法律で定められた独立機関である。行政院組織法で独立機関と定められている中央選挙委員会は、その典型的な事例のひとつで

あるといえる。実のところ、台湾にはこのタイプの独立機関がかなり存在しており<sup>32</sup>、最近では「移行期の正義」(台湾では「転型正義」と呼ばれる)の実現に向けて行政院に設置された促進転型正義委員会<sup>33</sup>もこのタイプに属する独立機関である。

中央選挙委員会組織法をもとに、中央選挙委員会についてさらに具体的に紹介すると、9名から11名の委員で構成され、そのうち1名が委員長にあたる主任委員、1名が副委員長にあたる副主任委員である。主任委員と副主任委員は専任の有給職だが、他の委員は無給職である(第3条)<sup>34</sup>。

主任委員、副主任委員および委員は、いずれも法律・政治に関する学識、経験を備えた公正な人物の中から、行政院長(首相)が推薦し、立法院が同意した後に立法院長により任命される。任期は4年、再任は1回までとされ、2年ごとに約半数が交代する形となっている。また、病気による職務執行不能のほか、違法行為、職務怠慢やその他失職行為、および逮捕・起訴を条件に、行政院長は中央選挙委員会の主任委員、副主任委員および委員を罷免することができるが、このときには立法院の同意を必要としない。

ちなみに、日本の中央選挙管理会では、委員長を含め委員はみな非常勤である。国会議員以外の者で、参議院議員の被選挙権を有する者の中から、国会の議決による指名に基づいて、内閣総理大臣により任命される。委員長は委員による互選で決まり、任期は衆参両院の議員よりも短い3年であ

27 「選挙管理機関」総務省ウェブサイト ([http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/naruhodo/naruhodo06.html](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/naruhodo/naruhodo06.html))。

28 「行政院組織法」行政院ウェブサイト (<https://www.ey.gov.tw/Page/29F59CE082887C81>)。

29 「中央行政機関組織基準法」法務部「全国法規資料庫」ウェブサイト (<http://law.moj.gov.tw/LawClass/LawAll.aspx?PCode=A0010036>)

30 台湾の中央行政機関では日本の内閣にあたる行政院が一級機関、日本の各省庁に相当する行政院所属の各部・委員会が二級機関と呼ばれている(中央行政機関組織基準法第6条)。

31 蘇永欽(2008)「我國憲政體制下的獨立行政機關(上)」『法令月刊』59巻1号、7～8頁。

32 同上論文、6～11頁。

33 促進転型正義条例には「行政院に所属する、二級独立機関である」と定められている(「促進転型正義條例」法務部「全国法規資料庫」ウェブサイト ([https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawSearchNo\\_print.aspx?PC=A0030296&DF=&SNo=1-21](https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawSearchNo_print.aspx?PC=A0030296&DF=&SNo=1-21)))。

34 ちなみに、行政院組織法が定める行政院所属の他の2つの独立機関(公平交易委員会、国家通訊伝播委員会)では、主任委員、副主任委員および委員はいずれも専任の有給職とされている。

る<sup>35</sup>。また、内閣総理大臣は一定の条件のもとで委員を罷免できるが、委員が参議院議員の被選挙権を失った場合を除いて、罷免には国会の同意が必要とされている。

中央選挙委員会に話を戻すと、委員のうち同一政党に所属する者が全体の3分の1を超えてはならず(第3条)、委員は党派を超えねばならないとされており、在任中は政党活動に参加してはならない(第5条)。

中央選挙委員会では、主任委員が召集する委員会議が毎月1回、必要に応じて臨時会議が開かれる。委員の半数以上の出席により開かれ、その議事は出席委員の過半数の同意により決する。ただし、重大な争議案件を処理する際には、委員の3分の2以上の出席が必要とされ、その議事は委員全体の過半数の同意によって決しなければならないと定められている(第7条)。

中央選挙委員会には事務局組織として、総合企画処、選務処および法政処と秘書室、人事室、主計室および政風室がある<sup>36</sup>。事務局の職員は、かつてのように内政部の職員が兼務しているわけではないが、いずれも国家公務員である。そして、地方での選挙管理業務を行うための出先機関として、6つの行政院直轄市には直轄市選挙委員会、その他16の各県・市には県市選挙委員会が置かれている。

## (2) 直轄市・県市選挙委員会

地方に置かれた選挙管理機関の組織と業務を定めた直轄市縣市選挙委員会組織準則<sup>37</sup>によると、

直轄市選挙委員会は9名から13名の委員、県市選挙委員会は5名から11名の委員でもって構成されている。いずれも無給職で、任期は4年である。委員は中央選挙委員会が提案した人選をもとに行政院長が派遣し、また中央選挙委員会がそのうち1名を主任委員に指定すると規定されている。委員の適任条件に関する規定はない。ただし、委員の中には必ず無党派の人物が含まれていなければならない、同一政党に所属する者が全体の3分の1を超えてはならない。罷免条件については中央選挙委員会の委員と同様だが手続きが異なり、中央選挙委員会の要請を受けて行政院長が罷免する(第3条)。このように、形式的には、直轄市・県市選挙委員会の主任委員を含む委員の人事権は中央選挙委員会にあることが規定されている。しかし、実情はというと、中央選挙委員会が決めるのではなく、地方の出先機関から示された人選を中央がほぼそのまま受け入れる形となっている。

それでは、特に直轄市・県市選挙委員会の主任委員については、どのような人物が務めているのだろうか。台湾では地方政府の首長、副首長および秘書長のことを「地方三長」と呼んでいるが、そのいずれかの現職が主任委員を務めるのが、ほぼ慣例となっている。本稿執筆時(2018年7月末)において、「地方三長」と主任委員の関係を見てみると、現職の首長(代理を含む)が主任委員を務めているのは、直轄市では台南市(代理市長)のみと、宜蘭県(代理県長)、新竹県、苗栗県、南投県および台東県の5つの県である。副首長が務めているのは、台北市と桃園市の2つの直轄市と、嘉義県、澎湖県、基隆市および嘉義市の4つの県・市である(澎湖県選挙委員会では代理主任委員)。そして、秘書長が務めているのは、新北市、台中市および高雄市の3つの直轄市と、彰化県、雲林県、屏東県、新竹市および連江県の5つの県・市である。なお、例外的なのが花蓮県と金門県であ

35 公職選挙法第5条の2。

36 「中央選挙委員会處務規程」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト(<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL051493>)。

37 「直轄市縣市選挙委員会組織準則」中央選挙委員会「主管法規共用系統」ウェブサイト(<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=FL052491>)。

る。花蓮県選挙委員会では同県政府の副秘書長が主任委員を務め、金門県選挙委員会では代理主任委員を同県政府の前秘書長が務めている<sup>38</sup>。

直轄市・県市選挙委員会でも、主任委員が召集する委員会議が毎月1回、必要に応じて臨時会議が開かれる。委員の半数以上の出席により開かれ、その議事は出席委員の過半数の同意により決する。ただし、重大な争議案件を処理する際には、委員の3分の2以上の出席が必要とされ、その議事は委員全体の過半数の同意によって決しなければならないと定められている（第7条）。

さらに、直轄市・県市選挙委員会には、選挙、罷免および公民投票の監視業務を行う監察小組が設けられている。監察小組の委員は3名から42名とされており、いずれも無給職である。このうち、3名から5名の委員が任期4年の専任であり、そのほかは選挙、罷免および公民投票の期間にのみ任用される委員である。選挙権を持つ公正な人物という委員の適任条件のもとで、各直轄市・県市選挙委員会からの人選を受けて中央選挙委員会が任用し、各直轄市・県市選挙委員会がそのうち1名を主任委員に指定する。また、選挙委員会の委員と同様の罷免条件のもとで、中央選挙委員会が罷免できる（第4条）。

直轄市・県市選挙委員会には、主任委員の右腕として会務を処理する総幹事と、彼をサポートする副総幹事が置かれている。事務局組織としては、第一組から第四組と人事室、主計室および政風室があるが、このうち第二組と第三組は選挙期間にのみ設置される<sup>39</sup>。事務局職員の人事権は形式上、中央選挙委員会にあるが、実際には職員は地方政府の職員である。したがって、直轄市・県

市選挙委員会は、制度上中央選挙委員会の出先機関であるが、実際には地方政府の影響力を強く受ける形となっている。

## 6. 中央選挙委員会の独立性

最後に、中央選挙委員会の独立性について検討してみたい。選挙結果への信頼を高めるうえで、重要な要件のひとつと考えられているのが選挙管理機関の独立性である<sup>40</sup>。上述のとおり、中央選挙委員会は行政院に所属する独立機関である。独立機関とはいえ、法律で定められた独立機関であり、憲法で定められた独立機関ではない。この点において、韓国の選挙管理を担当する選挙管理委員会とは大きく異なっている。韓国の選挙管理委員会は憲法機関であり、委員会はもちろんのこと、事務局組織も執政府から切り離されており、その独立性は極めて高い。選挙管理機関の3つのモデルのうち、独立モデルの典型とされている<sup>41</sup>。したがって、台湾の中央選挙委員会は独立モデルであるとする国際的な評価は、決して妥当なものとはいえない。

とはいえ、政府モデルと位置づけるのもまた必ずしも適当ではない。中央選挙委員会とその出先機関は行政院所属機関であるため、経常的な予算は中央政府の予算に組み込まれている。選挙時の管理費用については、中央選挙委員会は中央政府の予算から、直轄市・県市選挙委員会は地方政府の予算から捻出される。このように、予算面で政府に依存していることは間違いないが、その一方で独立性を保つための制度設計がなされているのも確かである。

まずは、独立機関という法律上の位置づけと関わる部分である。中央選挙委員会の主任委員を含む委員は、行政院長によって任命されるが、その

38 以上の情報は各直轄市・県市選挙委員会のウェブサイトを確認した。

39 「直轄市縣市選舉委員會辦事細則」中央選舉委員會「主管法規共用系統」ウェブサイト (<http://law.cec.gov.tw/LawContent.aspx?id=GL000374>)。

40 大西、前掲「民主主義と選挙管理」、13頁。

41 同上論文、27頁。

際には立法院の同意が必要とされている。そして、主任委員は閣僚級であるが、4年間という固定任期（再任は1回まで可能）が保証されている。したがって、行政院長の辞任に伴う閣僚の総辞職とは無関係である。罷免についても、任命時のように立法院の同意を必要としないが条件付きであり、行政院長はむやみに主任委員を解任することはできない。また、主任委員は閣議に相当する行政院院会にも出席する義務もない。任期保証はその他の委員についても同様である。そして、委員は同一政党に所属する者が3分の1を超えてはならない。

さらに、選挙管理機関の独立性だけでなく、選挙の公平性、公正性を確保するための工夫が凝らされている。中央選挙委員会は、法律・政治に関する学識と経験を備えた公正な人物で構成され、しかも各政党の党派性のある代表者を入れることになっている。つまり、専門性の向上により選挙結果への信頼性を確保し、党派性の付与により各政党の合意と了解を得ることで選挙の公正性を保つ仕組みが作られているのである。

したがって、台湾の選挙管理機関を独立モデルであるとする国際的な評価は必ずしも妥当ではなく、中央選挙委員会の特徴からは、むしろ混合モデルと位置づけるのが適当であるといえる。

## 7. おわりに

本稿では、台湾の選挙管理のあり方および選挙

管理機関の制度的な特徴を紹介し、その独立性について考察した。選挙管理機関の3つのモデルとの関係でいえば、日本の事例と同様に混合モデルの一種と位置づけるのが適当である。ただし、日本の選挙管理委員会と比べて、台湾の中央選挙委員会の守備範囲は広範であり、執政府からの独立性も相対的に高い。内政部との関係を考えると、3つのモデルが想定する役割分担との違いもあり、中央選挙委員会はいわゆる「選政」を除いた政策・監視部門であるといえそうだが、この点については改めて論じることにはしたい。

また、混合モデルとはいえ、地方での直轄市・県市委員会の地方政府からの独立性は、事実上決して高いものとはいえない。にもかかわらず、地方でも選挙が大きなトラブルなく実施されている事実は、そのような仕組みのもとで選挙の公平性、公正性と選挙結果への信頼性が確保されていることを示唆している。台湾における選挙管理に対する理解をより深めるためには、制度分析だけでは難しい、そうした選挙管理の実態を考察していくことが必要であるといえよう。

\*本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金（研究課題/領域番号 17K03568）の成果の一部である。

# 日本台湾交流協会事業月間報告

## 主な日本台湾交流協会事業（7月実施分）

7月	場所	内容	主な出席者（日）	主な出席者（台）
4日	台中市	領事出張サービス	鶴見主任（台北）	
5日	台北市	台北日本人学校夏祭り第4回実行委員会	鶴見主任（台北）	
6日	高雄市	山梨県議会と高雄市議会の友好協定調印式（於：高雄市議会）	白壁賢一・山梨県議会議長、山梨県議会議員、岩倉次長（高雄）	許立明・高雄市長、康裕成・高雄市議会議長、高雄市議會議員 他
7日	台北市	台北日本人学校ミュージックフェスティバル	西海副代表（台北）	
7日	台北市	台北日本人学校夏祭り警備説明会	鶴見主任、中村主任（台北）	
7日	高雄市	日台交流サミット（於：高雄展覽館）	藤田和秀・全国日台友好議員協議会会長、地方議員、中郡所長（高雄） 他	陳菊・総統府秘書長、頼清徳・行政院長、謝長廷・駐日台北経済文化代表事務所代表、康裕成・高雄市議会議長地方議員 他
9-10日	東京	日台介護産業交流サミット	古屋圭司衆議院議員、武見敬三参議院議員、谷崎理事長、舟町専務理事、江藤貿易経済部長（本部） 他	何明玥・総統府国策顧問、郭仲熙・駐日台北経済文化代表事務所副代表、莊月清・台日産業技術合作促進会理事長 他
10日	高雄市	日本映画「鈴木清順監督作品特集」記者会出席	中郡所長（高雄）	楊孟穎・高雄市電影館館長 他
11日	台北市	台北日本人学校第2回運営委員会	西海副代表、鶴見主任（台北）	
11-19日	東京・愛知県	対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」第1陣（テーマ：日本の産業政策と科学技術）招へい	長田洋司・外務省事務官、柿澤総務部長、古跡副長、松寺副長（本部）	大学生/大学院生30名、林世英・駐日台北経済文化代表事務所教育部部長、洪宜民・中華経済研究院東京事務所所長、田世民・台湾大学日本語文学系副教授
13日	東京	2018TAIWAN EXCELLENCE in 東京	水井・JETRO 理事、久貝・日本商工会議所常務、黒木瞳（女優）、舟町専務理事（本部） 他	謝長廷・駐日台北経済文化代表事務所代表、周立・同事務所経済部部長、葉明水・TAITRA 秘書長 他
14日	東京	第37期第2回日本中華聯合総会懇親会	新垣句子・日本中華聯合総会会長、詹徳薫・同名誉会長、谷崎理事長（本部） 他	謝長廷・駐日台北経済文化代表事務所代表、張仁久・副代表、郭仲熙・副代表 他
14日	台北市	台北日本人学校夏祭り	横田副代表、西海副代表、鶴見主任、中村主任、北野主任、古川主任、太田警備専門員（台北）	
17日	東京	日本台湾交流協会日本研究支援委員会	川島真・東京大学教授、松金公正・宇都宮大学教授、谷崎理事長、池田維顧問、柿澤総務部長、土田副長（本部） 他	
18日	台北市	三三企業交流会例会（蔡英文総統の講演会）	大橋・台北日本工商会理事長、沼田代表、横田副代表、相馬主任（台北） 他	蔡英文・総統、陳美伶・国家發展委員会主任委員、許勝雄・三三企業交流会理事長 他
18日	新竹市	領事出張サービス	古川主任（台北）	
19日	台南市	領事出張サービス（於：内政部移民署台南市第一服務站）	鈴木主任（高雄）他1名	
20日	東京	台湾高校生日本留学事業第1期離日前報告会（於：本部会議室）	谷崎理事長、柿澤総務部長、宮崎職員、石崎職員（本部）	第1期留学生15名
21日	台北市	台湾高校生日本留学事業第1期事後報告会・修了式、第2期事前説明会（於：台北文化ホール他）	沼田代表、松原広報文化部長、浅田主任、阿部専門調査員、白田主事（台北）	第1期留学生15名、第2期留学生24名、張淑玲・台湾日本関係協会秘書長、王鴻鳴・教育国際及兩岸教育司科長
21日	高雄市	平成30年度留学フェア開幕式出席（於：高雄展覽館）	澤木公義・独立行政法人日本学生支援機構監事、大八木繁則・同留学生事業部次長、真崎裕子・公益社団法人東京都専修学校各種学校協会事務局長、中郡所長（高雄） 他	林俊宏・留日情報雑誌 J'study 代表取締役 他

7月	場所	内容	主な出席者(日)	主な出席者(台)
21-22日	台北市	台湾農業者による西日本豪雨被災支援のためのチャリティ活動(台湾産ドラゴンフルーツの売り上げの全てを日本に寄付)	横田副代表、馬場主任(台北) 他	胡忠一・農業委員会食糧署長 他
22日	高雄市	高雄事務所主催日本文化講座「Ninjalogy～忍者とは何か～」(於:大東文化芸術センター)	池田裕氏(忍者研究家)、中郡所長、岩倉次長(高雄)	
22-28日	東京・愛知県	有力者招聘事業(黄天牧・金融監督管理委員会副主任委員)	谷崎理事長、江藤貿易経済部長(本部) 他	黄天牧・金管会副主任委員、陳銘賢・同会証券商管理組副組長、聶之珩台湾証券取引所中級專員
23日	山梨	日台パートナーシップ強化セミナー	田崎嘉邦・(株)野村総合研究所上席コンサルタント、河村 憲子・(株)三菱総合研究所主席研究員、荒牧直樹・熊本県地方移転促進アドバイザー、石田貿易経済部次長、正岡貿易経済部副長(本部)	
24日	東京	台湾情勢セミナー(講師:黄天牧・金融監督管理委員会副主任委員)	江藤貿易部長(本部) 他	黄天牧・金管会副主任委員、陳銘賢・同会証券商管理組副組長、聶之珩台湾証券取引所中級專員
25日	青森	日台パートナーシップ強化セミナー	ディン ミンフン・(株)三菱総合研究所研究員、田崎嘉邦・(株)野村総合研究所上席コンサルタント、正岡貿易経済部副長(本部)	楊沛榮(台湾金属工業研究發展センター専案經理)、陳志聖(台湾金属工業研究發展センター専案經理)
26日	台北市	アジア太平洋地域農業技術展覧会及びフォーラム開会式	馬場主任(台北) 他	李退之・農業委員会副主任委員、駐台各国代表者 他
28-29日	東京	台湾フェスタ2018	小磯明・東京都自民党政策参与、柿澤総務部長(本部) 他	郭仲熙・駐日台北経済文化代表事務所副代表、張碩文・親民党立法院党団主任 他

## 交流 2018年8月 vol.929

平成30年8月24日 発行

編集・発行人 舟町仁志

発行所 郵便番号 106-0032

東京都港区六本木3丁目16番33号

青葉六本木ビル7階

公益財団法人 日本台湾交流協会 総務部

電話 (03) 5573-2600

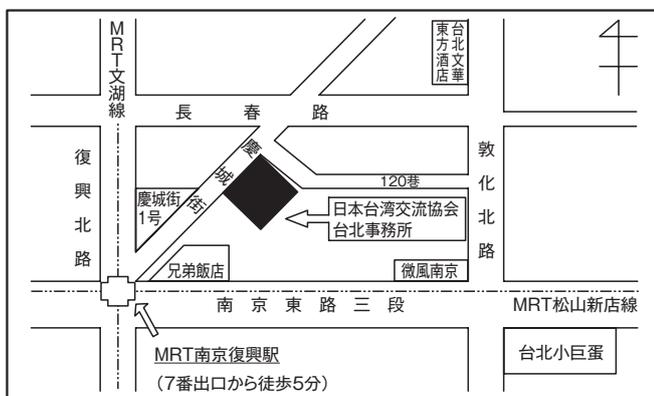
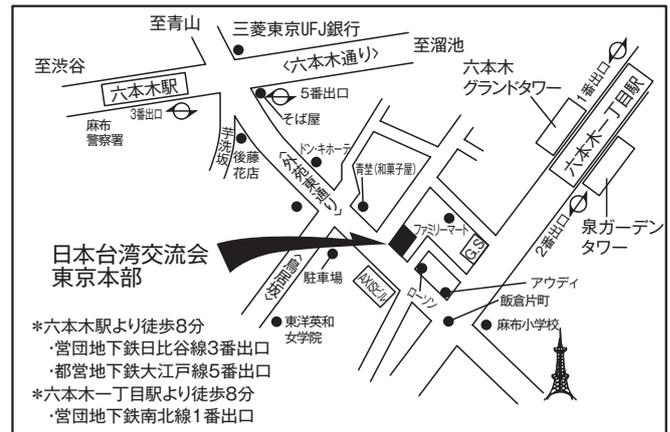
FAX (03) 5573-2601

URL <http://www.koryu.or.jp>

(三事務所共通)

表紙デザイン: 株式会社 丸井工文社

印刷所: 株式会社 丸井工文社

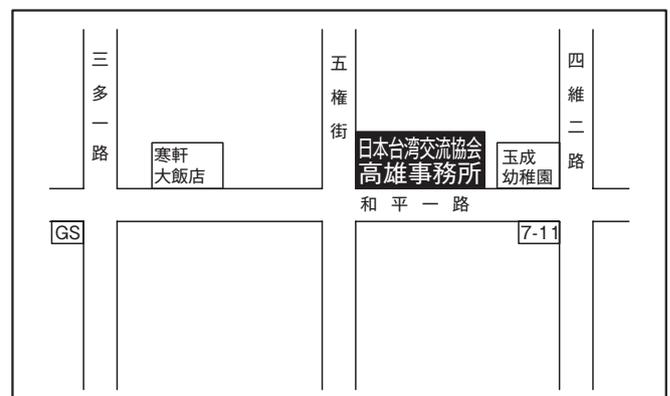


台北事務所 台北市慶城街28號 通泰大樓

Tong Tai Plaza, 28 Ching Cheng st., Taipei

電話 (886) 2-2713-8000

FAX (886) 2-2713-8787



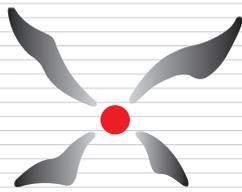
高雄事務所 高雄市苓雅区和平一路87号

南和和平大樓9樓・10樓

9F, 87 Hoping 1st Rd., Lingya Qu, kaohsiung Taiwan

電話 (886) 7-771-4008 (代)

FAX (886) 2-771-2734



公益財団法人

日本台湾交流協会

Japan-Taiwan Exchange Association

